



2024年度 決算説明会

コマツ出席者

代表取締役社長（兼）CEO

代表取締役（兼）専務執行役員CFO

執行役員経営管理部長

今吉 琢也

堀越 健

菱沼 聖史

2025年4月28日（月）

目次

I.2024年度 決算の概要 <P3-P11>

P4-P5	: 2024年度の概要・セグメント売上高と利益
P6-P7	: <建設機械・車両> 2024年度の状況
P8	: <リテールファイナンス> 2024年度の状況
P9	: <産業機械他> 2024年度の売上高とセグメント利益
P10	: 連結貸借対照表とフリー・キャッシュ・フロー (FCF)
P11	: 前中期経営計画の振返り (2022年度-2024年度)

II.2025年度の業績見通し <P12-P33>

P13-P14	: 2025年度の見通し (概要・セグメント売上高・利益)
P15	: コマツの米国での建設・鉱山機械ビジネスの構造
P16	: 2025年度の業績見通しに織り込んだ米国の追加関税の影響
P17-P18	: <建設機械・車両> 2025年度の売上高とセグメント利益の見通し
P19	: <リテールファイナンス> 2025年度の見通し
P20	: <産業機械他> 2025年度の売上高とセグメント利益の見通し
P21-P25	: <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し (全体および地域別)
P26-P28	: <建設機械・車両> 鉱山機械の市場動向・需要推移・売上高の見通し
P29	: <建設機械・車両> 本体・部品・サービス等の売上高の見通し
P30	: 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

III.中期経営計画 <P34-P51>

P35-P51	: 中期経営計画 (2025年度-2027年度)
---------	--------------------------

I .2024年度 決算の概要

2024年度の概要

- ・売上高は、前年比+6.2%増収の4兆1,044億円。
- ・営業利益は、前年比+8.2%増益の6,571億円。売上高営業利益率は、+0.3ポイント上昇し16.0%。
- ・純利益は、前年比+11.7%増益の4,396億円。

金額単位：億円	2023年度 ¥144.3/USD ¥156.0/EUR ¥94.7/AUD	2024年度 ¥152.8/USD ¥163.5/EUR ¥99.5/AUD	前年比	
			増減	増減率
売上高	38,651	41,044	+2,393	+6.2%
セグメント利益	6,057	6,635	+579	+9.6%
その他の営業収益（▲費用）	15	▲ 64	▲ 79	-
営業利益	6,072	6,571	+499	+8.2%
売上高営業利益率	15.7%	16.0%	+0.3ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲ 315	▲ 523	▲ 208	-
税引前当期純利益	5,757	6,048	+292	+5.1%
当社株主に帰属する当期純利益	3,934	4,396	+462	+11.7%
ROE	14.1%	14.2%	+0.1ポイント	
ネットD/Eレシオ	0.26	0.24	▲0.02ポイント	
1株当たり配当金（円）	167円	190円	+23円	
連結配当性向	40.1%	40.1%		

2024年度の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比+5.1%増収の3兆7,982億円。セグメント利益は、前年比+4.3%増益の5,989億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比+19.0%増収の1,232億円。セグメント利益は、前年比+21.4%増益の294億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+14.3%増収の2,236億円。セグメント利益は、前年比約2.7倍の274億円。

金額単位：億円		2023年度		2024年度		前年比	
						増減	増減率
売上高		38,651		41,044		+2,393	+6.2%
	建設機械・車両	(35,914)	36,152	(37,875)	37,982	(+1,961) +1,831	(+5.5%) +5.1%
	リテールファイナンス	(809)	1,035	(962)	1,232	(+153) +197	(+18.9%) +19.0%
	産業機械他	(1,928)	1,956	(2,207)	2,236	(+279) +280	(+14.4%) +14.3%
	消去		▲ 492		▲ 407	+86	-
セグメント利益		15.7%	6,057	16.2%	6,635	+0.5%ポイント +579	+9.6%
	建設機械・車両	15.9%	5,740	15.8%	5,989	▲0.1%ポイント +249	+4.3%
	リテールファイナンス	23.4%	242	23.9%	294	+0.5%ポイント +52	+21.4%
	産業機械他	5.3%	103	12.3%	274	+7.0%ポイント +171	+166.5%
	消去または全社		▲ 28		78	+107	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

売上は、物量減のマイナス影響を、円安と販売価格改善のプラス影響が上回り増収。
利益は、物量減とコスト増のマイナス影響があったものの、円安と販売価格改善のプラス影響が上回り増益。

■ リテールファイナンス

受取金利率の上昇、円安のプラス影響や金融債権の増加などにより増収増益。

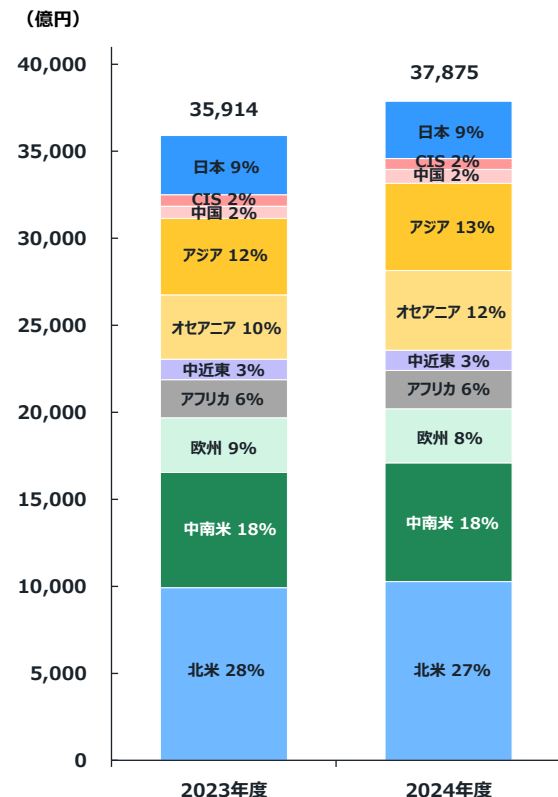
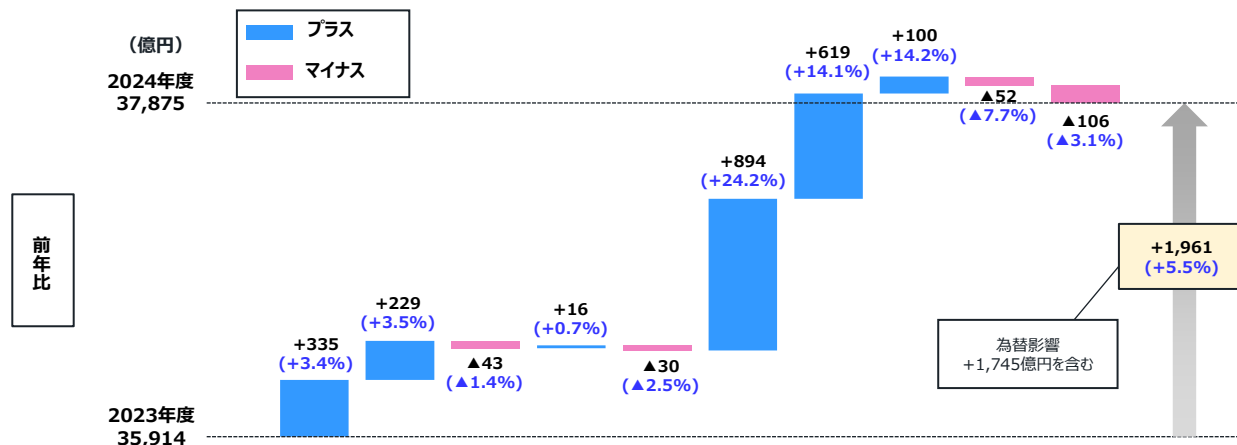
■ 産業機械他

自動車産業向けの鍛圧機械・板金機械・工作機械では、主に大型プレスや工作機械の販売増により、
半導体産業向けでは、エキシマレーザーのメンテナンス売上が回復したことなどにより増収増益。

% ： 利益率 () ： 外部顧客向け売上高

<建設機械・車両> 2024年度の地域別売上高（外部顧客向け）

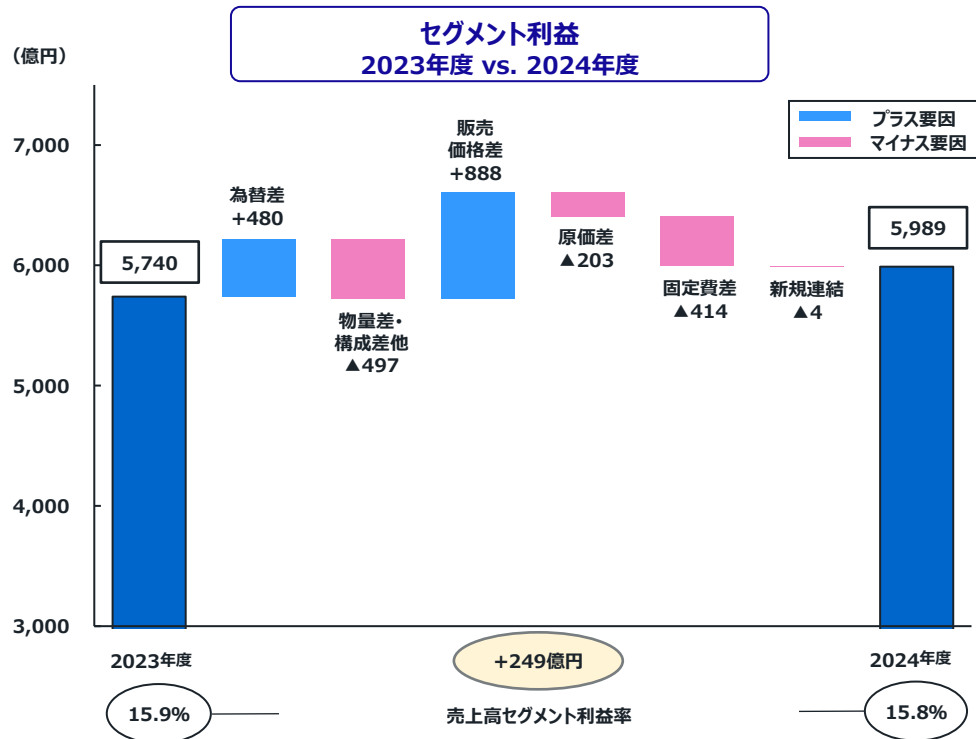
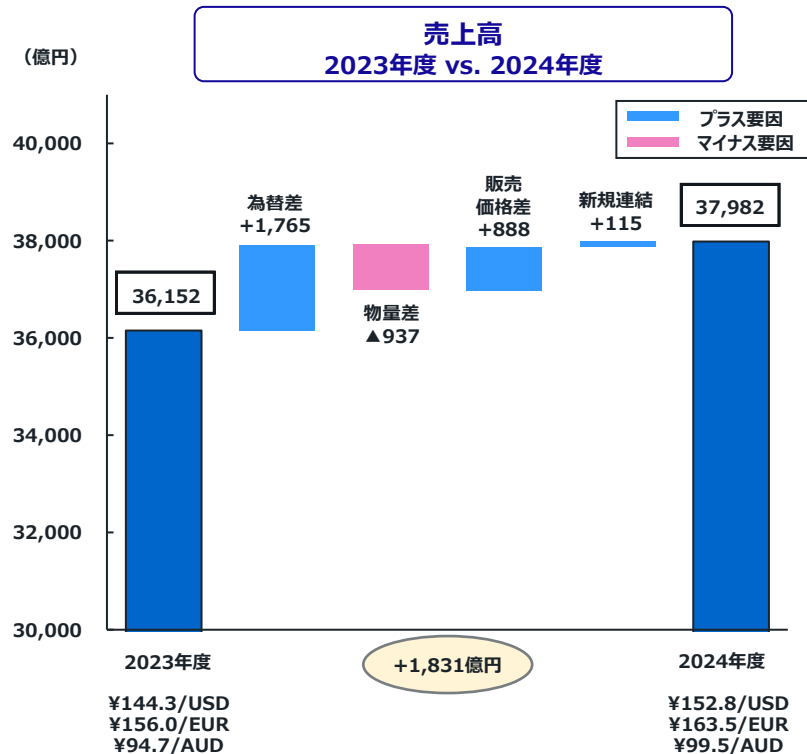
- ・外部顧客向け売上高は、前年比+5.5%増収の3兆7,875億円。
- ・為替影響を除く実質ベースではオセアニア、アジアなどで増加、北米、中南米、アフリカなどで減少。



（億円）	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2023年度	9,929	6,607	3,147	2,196	1,176	3,693	4,394	702	667	3,402	35,914
2024年度	10,264	6,836	3,104	2,211	1,146	4,587	5,013	802	615	3,296	37,875
増減	+335	+229	▲ 43	+16	▲ 30	+894	+619	+100	▲ 52	▲ 106	+1,961
増減 （為替影響除き）	▲ 232	▲ 145	▲ 175	▲ 120	▲ 83	+680	+397	+59	▲ 58	▲ 106	+216

<建設機械・車両> 2024年度の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は、物量減のマイナス影響を、円安と販売価格改善のプラス影響が上回り、前年比+1,831億円の増収。
- ・セグメント利益は、物量減とコスト増のマイナス影響があったものの、円安と販売価格改善のプラス影響が上回り、前年比+249億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は、前年比▲0.1ポイント低下し15.8%。

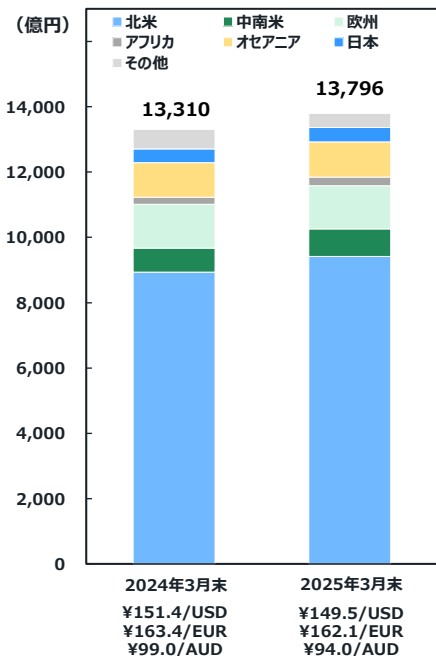


<リテールファイナンス> 2024年度の状況

- ・資産は、主に新規取組の増加により、前年度末比+486億円の増加。
- ・新規取組高は、主に円安の影響により、前年比+932億円の増加。
- ・売上高・セグメント利益は、受取金利率の上昇、円安のプラス影響や金融債権の増加などにより、前年比+197億円の増収、+52億円の増益。

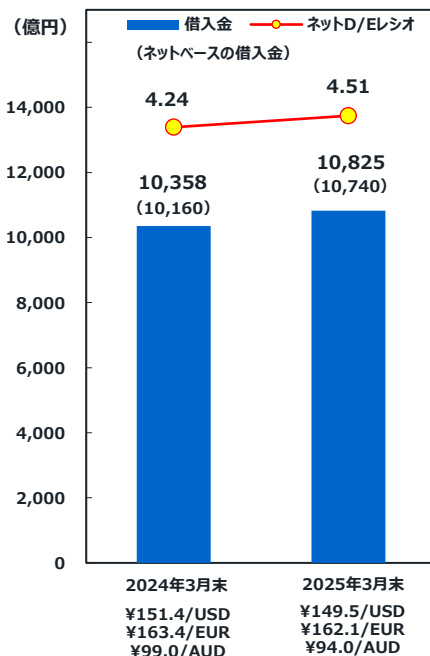
資産

2024年3月末 vs. 2025年3月末



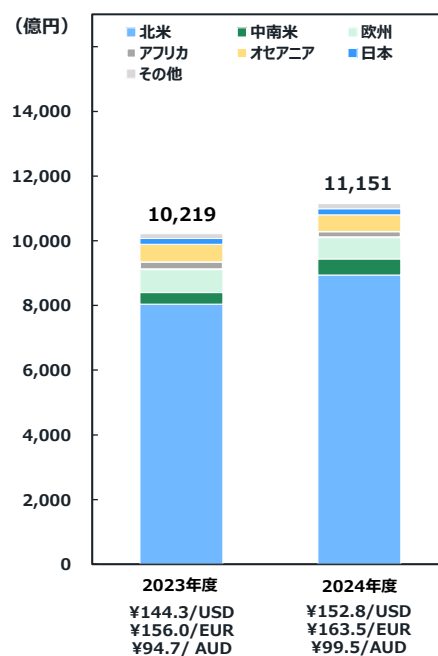
借入金

2024年3月末 vs. 2025年3月末



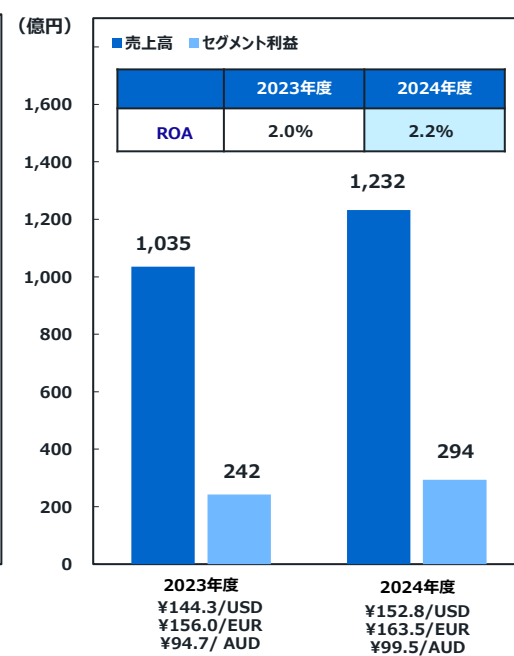
新規取組高

2023年度 vs. 2024年度



収益

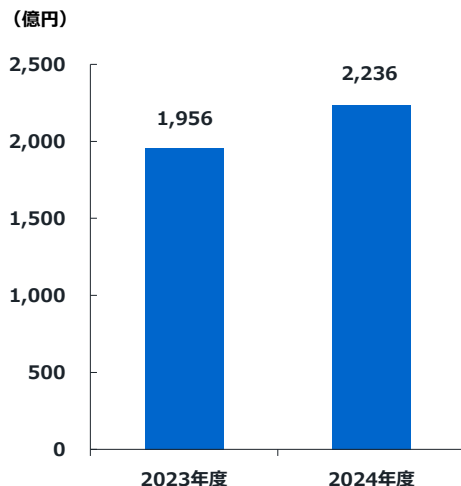
2023年度 vs. 2024年度



<産業機械他> 2024年度の売上高とセグメント利益

- ・売上高は、前年比+14.3%増収の2,236億円。セグメント利益は、前年に対し約2.7倍の274億円。
- ・自動車産業向けの鍛圧機械・板金機械・工作機械では、主に大型プレスや工作機械の販売増により、半導体産業向けでは、エキシマレーザーのメンテナンス売上が回復したことなどにより増収増益。
- ・売上高セグメント利益率は、12.3%。

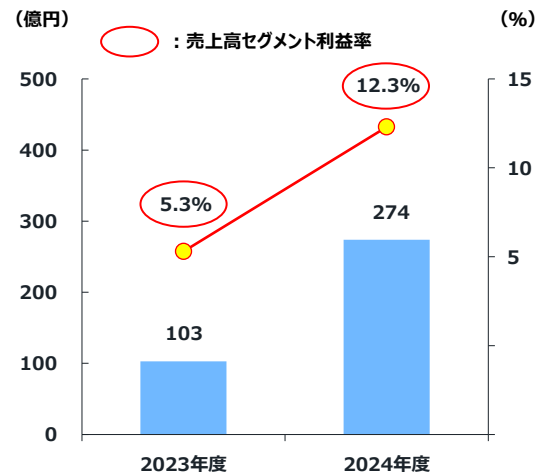
売上高
2023年度 vs. 2024年度



売上高の内訳

(億円)	2023年度	2024年度	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	500	574	+74	+14.9%
コマツNTC	419	479	+60	+14.3%
ギガフoton	556	598	+42	+7.6%
その他	481	585	+104	+21.5%
合 計	1,956	2,236	+280	+14.3%

セグメント利益
2023年度 vs. 2024年度



連結貸借対照表とフリー・キャッシュ・フロー（FCF）

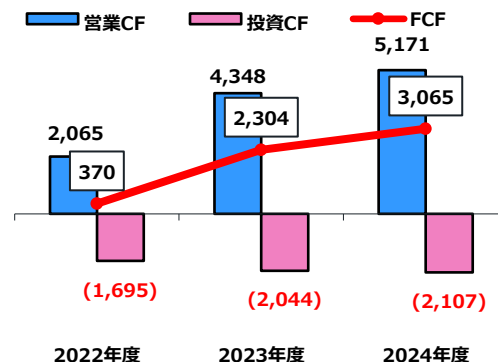
- ・総資産は、主に売掛債権の増加により前年度末比+1,369億円増加の5兆7,735億円。棚卸資産は、前年度末比▲320億円減少の1兆4,067億円。
- ・株主資本比率は、前年度末比+1.2ポイント増加し55.0%。
- ・FCFは、前年比+761億円増加の3,065億円。

連結貸借対照表

金額単位：億円 ○：ネットD/エレシオ	2024年3月末 ¥151.4/USD ¥163.4/EUR ¥99.0/AUD	2025年3月末 ¥149.5/USD ¥162.1/EUR ¥94.0/AUD	増減
現金・預金（含む定期預金）[a]	4,032	3,856	▲ 176
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	19,518	20,825	+1,307
棚卸資産	14,387	14,067	▲ 320
有形固定資産	9,081	9,143	+62
その他資産	9,349	9,845	+496
資産合計	56,367	57,735	+1,369
支払手形・買掛金	3,203	3,349	+146
借入金・社債 [b]	11,994	11,506	▲ 488
その他負債	9,185	9,431	+246
負債合計	24,382	24,287	▲ 95
（株主資本比率）	（53.8%）	（55.0%）	（+1.2ポイント）
株主資本	30,336	31,734	+1,398
非支配持分	1,649	1,715	+66
負債及び純資産合計	56,367	57,735	+1,369
ネットD/エレシオの借入金・社債 [b-a]	0.26 7,962	0.24 7,650	▲ 312
ネットD/エレシオ （リアルファイナンス会社を除いた場合）	▲0.08	▲0.11	

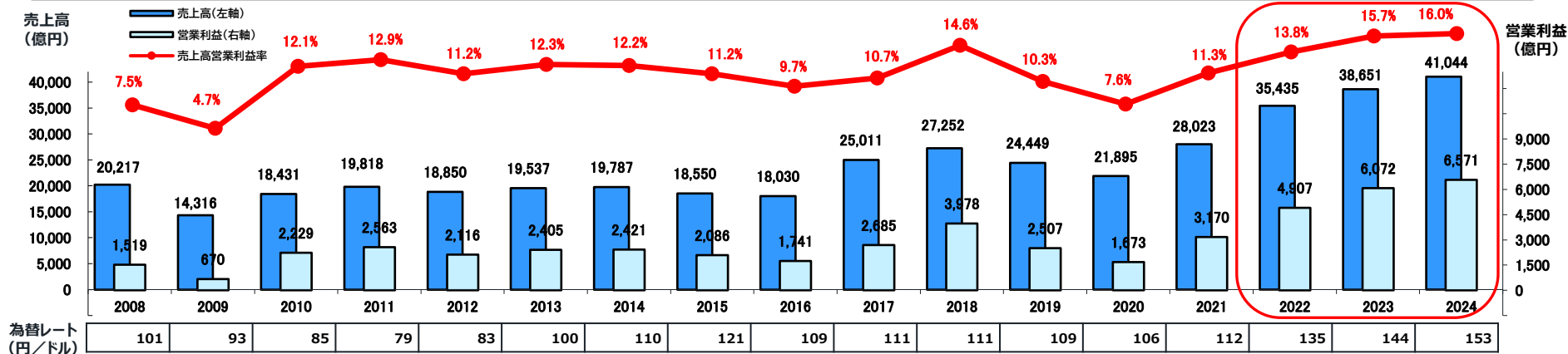
FCF

金額単位：億円	2023年度	2024年度	増減
営業CF	4,348	5,171	+824
投資CF	▲ 2,044	▲ 2,107	▲ 63
FCF	2,304	3,065	+761



前中期経営計画の振返り（2022年度-2024年度）： 年間業績推移および中期経営計画の経営目標達成状況

・販売価格の改善、為替のプラス影響と成長戦略と構造改革の成果もあり、2024年度の売上高、営業利益、営業利益率は過去最高。経営目標は概ね達成。



<中期経営計画の経営目標達成状況>

	経営目標	指標	2024年度 実績
成長性	・ 業界水準を超える成長率	売上高成長率	6.2% (2022-2024平均 13.6%)
収益性	・ 業界トップレベルの営業利益率	営業利益率	16.0% (2022-2024平均 15.2%)
効率性	・ ROE 10%以上	ROE	14.2%
健全性	・ 業界トップレベルの財務体質	ネットD/E	0.24
株主還元	・ 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。	連結配当性向	40.1% (2022年度 40.3%, 2023年度 40.1%)
	・ 連結配当性向を40%以上とする。		
	・ 環境負荷低減	環境負荷低減	※ ▲23%
	・ CO2排出削減：2030年50%減（2010年比）	生産によるCO2削減	※ ▲53%
	・ 再生可能エネルギー使用率：2030年50%	再生可能エネルギー使用比率	※ 31%
	・ 外部評価	外部評価	DJBICI選定
ESG	・ DJBICI選定（ワールド、アジアパシフィック）		CDP気候変動 評価 A
	・ CDP Aリスト選定（気候変動、水リスク）		CDP水リスク 評価 A
	・ ROA 1.5% - 2.0%	ROA	2.2% (2022年度 2.6%, 2023年度 2.0%)
リテールファイナンス事業		ネットD/E	4.51
			※ 見込み値

Ⅱ．2025年度の業績見通し

2025年度の業績見通し

- ・売上高は、前年比▲8.8%減収の3兆7,450億円。
- ・営業利益は、前年比▲27.3%減益の4,780億円。売上高営業利益率は、▲3.2ポイント低下し12.8%。
- ・純利益は、前年比▲29.7%減益の3,090億円。

金額単位：億円	2024年度 ¥152.8/USD ¥163.5/EUR ¥99.5/AUD	2025年度 (見通し) ¥135.0/USD ¥150.0/EUR ¥84.0/AUD	前年比	
			増減	増減率
売上高	41,044	37,450	▲ 3,594	▲8.8%
セグメント利益	6,635	4,830	▲ 1,805	▲27.2%
その他の営業収益(▲費用)	▲ 64	▲ 50	+14	-
営業利益	6,571	4,780	▲ 1,791	▲27.3%
売上高営業利益率	16.0%	12.8%	▲ 3.2ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲ 523	▲ 360	+163	-
税引前当期純利益	6,048	4,420	▲ 1,628	▲26.9%
当社株主に帰属する当期純利益	4,396	3,090	▲ 1,306	▲29.7%

ROE	14.2%	(※) 10.0%	▲4.2ポイント
1株当たり配当金(円)	190円	190円	±0円
連結配当性向	40.1%	(※) 56.7%	

(※) 自己株式取得の影響を考慮していない

売上高・営業利益への為替感応度(1円変動/年)

	売上高	営業利益
USD	150億円	43億円
EUR	26億円	5億円
AUD	40億円	3億円

2025年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年比▲9.4%減収の3兆4,400億円。セグメント利益は、前年比▲28.5%減益の4,280億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年比▲12.8%減収の1,075億円。セグメント利益は、前年比▲18.4%減益の240億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年比+3.5%増収の2,315億円。セグメント利益は、前年比+13.2%増益の310億円。

金額単位：億円		2024年度		2025年度 (見通し)		前年比	
						増減	増減率
売上高		41,044		37,450		▲ 3,594	▲ 8.8%
	建設機械・車両	(37,875)	37,982	(34,300)	34,400	(▲ 3,575) ▲ 3,582	(▲ 9.4%) ▲ 9.4%
	リテールファイナンス	(962)	1,232	(845)	1,075	(▲ 117) ▲ 157	(▲ 12.2%) ▲ 12.8%
	産業機械他	(2,207)	2,236	(2,306)	2,315	(+99) +79	(+4.4%) +3.5%
	消去	▲ 407		▲ 340		+67	-
セグメント利益		16.2%	6,635	12.9%	4,830	▲ 3.3ポイント ▲ 1,805	▲ 27.2%
	建設機械・車両	15.8%	5,989	12.4%	4,280	▲ 3.4ポイント ▲ 1,709	▲ 28.5%
	リテールファイナンス	23.9%	294	22.3%	240	▲ 1.6ポイント ▲ 54	▲ 18.4%
	産業機械他	12.3%	274	13.4%	310	+1.1ポイント +36	+13.2%
	消去または全社	78		0		▲ 78	-

各セグメントの状況：

■ 建設機械・車両

売上は、物量増や販売価格改善のプラス影響があるものの、円高と米国の関税などのマイナス影響により減収。
利益は、販売価格改善のプラス影響があるものの、円高と米国の関税コスト増のマイナス影響などにより減益。

■ リテールファイナンス

主に円高の影響により減収減益。

■ 産業機械他

自動車産業向けの鍛圧機械・板金機械・工作機械では、大型プレスとサービスの売上が増加。
半導体産業向けでは、市場回復によりメンテナンス売上を中心に売上が増加し、増収増益。

% ： 利益率 () ： 外部顧客向け売上高

コマツの米国での建設・鉱山機械ビジネスの構造

- ・米国で販売のうち約50%が米国外で生産し輸入される主に一般建機の完成品・部品。
- ・残りの50%が現地生産の製品、部品。一般建機は主に米国内とカナダへ供給、鉱山機械の超大型ダンプトラックなどは米国で一極生産し、全世界に供給。
- ・現地生産のうち、一般建機は輸入部品の割合が高く、鉱山機械は米国製部品の割合が高い。

トレードバランス (輸出 v.s. 輸入)	☐ 過去10年累計 (～FY23) で約7,500MUSDの輸出超過 (輸出> 輸入) ☐ 2017年のJoy Global (現KMC) 買収以降、継続的に約1,000MUSD/年の輸出超過 (輸出> 輸入)
雇用	☐ コマツ子会社 約8,000人、代理店 約9,000人、合計 約17,000人を雇用 (FY23)
設備投資・M&A	☐ コンスタントに300MUSD/年を投資 FY21にはミルウォーキーにKMC本社工場建設 (写真: 右) ☐ バッテリーメーカーのAmerican Battery Solutions, IncをFY23に買収 (買収金額: 約370億円)

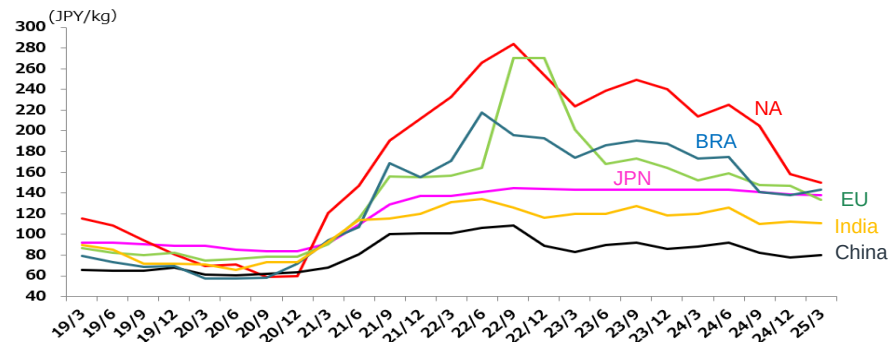


【米国への輸入・現地生産・調達構造のイメージ】	米への輸入 額構成比
【完成品（本体・部品）輸入】 主に一般建機 日本・ブラジル・タイなど工場→米国現法→主に米国・カナダ代理店	約50%
海外からの輸入品100%	
【現地生産：一般建機】 各国から部品供給がメイン+米国調達→米国現法→主に米国・カナダ代理店	約25%
米国製 輸入品 主に日本、中国	
【現地生産：鉱山機械・部品】 米国調達がメイン+各国から部品→米国現法→全世界へ輸出	約25%
米国製 輸入品 主に欧州、カナダ、中南米、中国	

【米国現地法人からの主な出荷先構成のイメージ】



【鋼材価格推移 SS400相当（コマツ調べ）】 為替は各月のレートで円換算



2025年度の業績見通しに織り込んだ米国の追加関税の影響

・2025年度の業績見通しに織り込んだ米国の追加関税による売上とセグメント利益への影響額は次の通り。

前提条件：4月24日（日本時間）時点で米国政府が発表済みの関税政策に基づく税率が適用されること

■ 鉄鋼・アルミ

中国：+45% カナダ・メキシコ：+50% それ以外：+25%

（※1）税率は原則として
建設機械に対する関税率。

■ 鉄鋼・アルミ以外（※1）

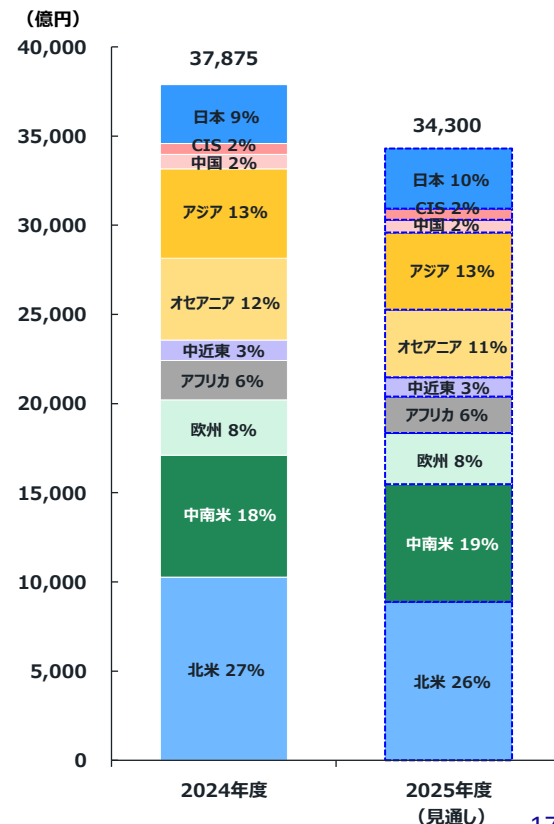
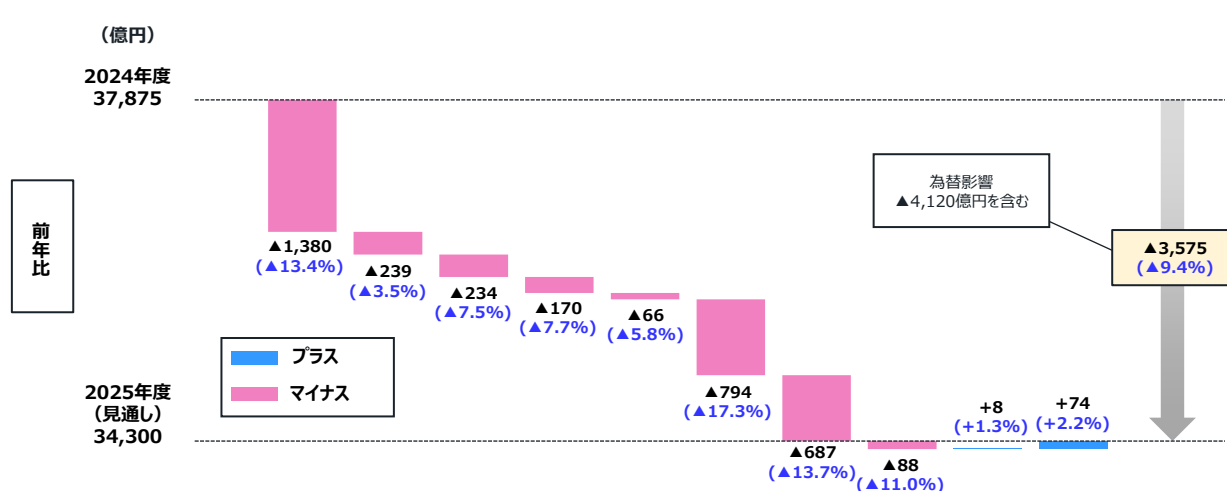
中国：+145% カナダ・メキシコ：+25% それ以外：各国別の税率（但し、4月9日から90日間の猶予期間は一律10%で計算）

(億円) ¥135.0/USD	需要減			関税コスト増 (原価差)	備考
	見積りの考え方	売上 (物量差)	利益 (物量差)		
建設機械・車両	関税影響による名目GDPの成長率が▲1.1%低下すると見て、 需要へのインパクトを推定	▲500	▲150	▲780 (※2)	(※2) 年間ベースの関税コスト 増影響額は▲1,400。2025年 度は在庫を考慮し▲780と見積り。
リテールファイナンス	建設機械の需要減相当の新規 取組の減少	▲10	▲3	-	
産業機械他		▲10	▲5	▲5	
合計		▲520	▲158	▲785	

<建設機械・車両> 2025年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

・外部顧客向け売上高は、前年比▲9.4%減収の3兆4,300億円。

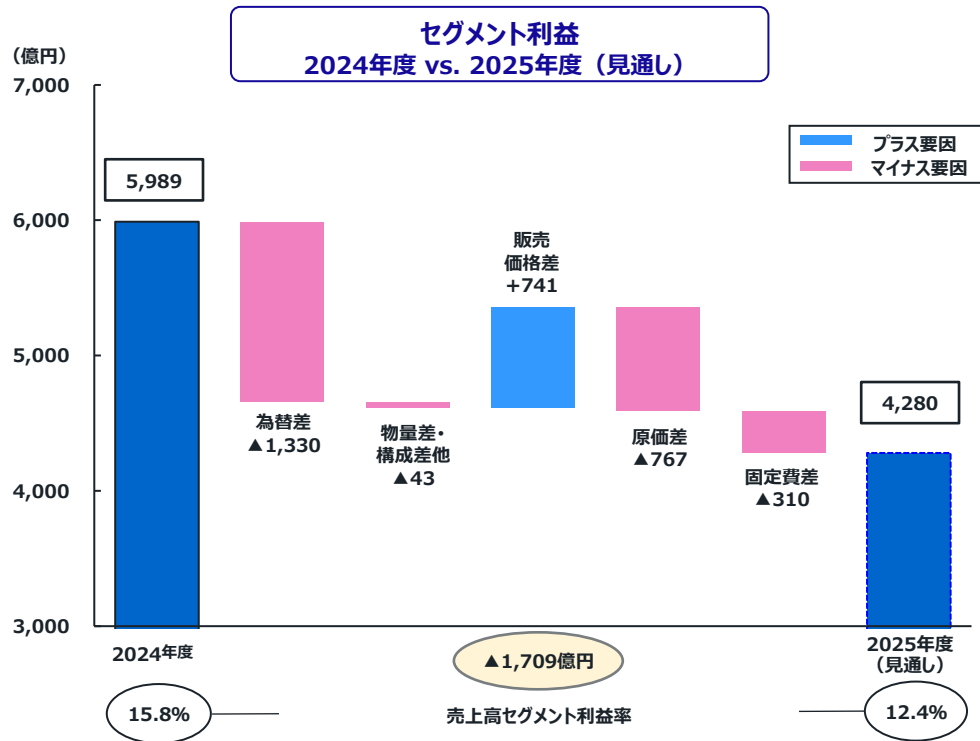
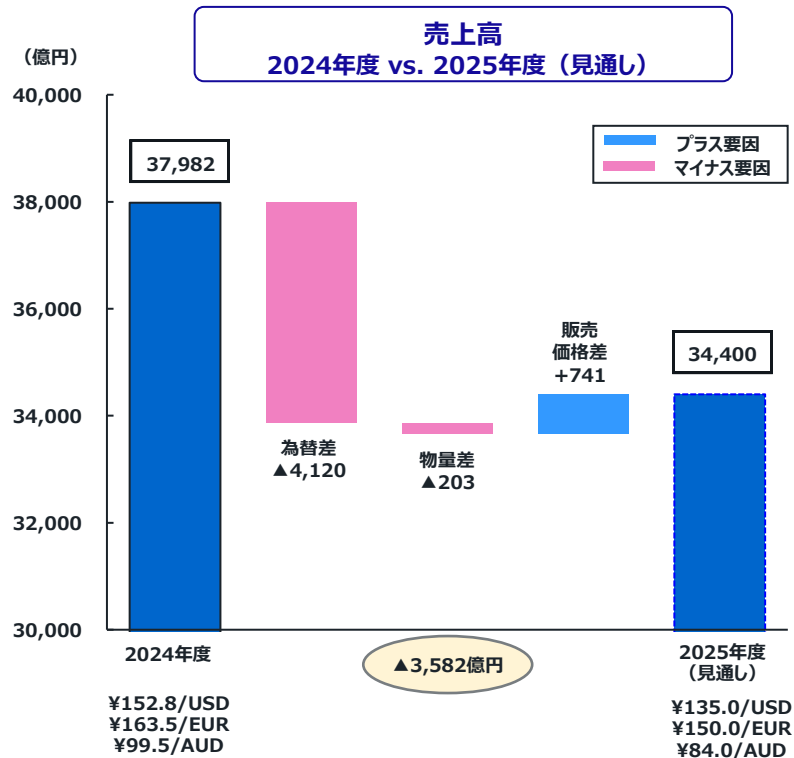
・円高の影響でほぼ全地域で減収となるが、為替変動の影響を除いた場合、前年に鉱山機械本体の販売が多かった北米、オセアニア、アジアを除き実質で増収。



(億円)	米州		欧州 アフリカ 中近東			オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2024年度	10,264	6,836	3,104	2,211	1,146	4,587	5,013	802	615	3,296	37,875
2025年度 (見通し)	8,884	6,597	2,870	2,041	1,080	3,794	4,326	714	623	3,370	34,300
増減	▲ 1,380	▲ 239	▲ 234	▲ 170	▲ 66	▲ 794	▲ 687	▲ 88	+8	+74	▲ 3,575
増減 (為替影響除き)	▲ 205	+623	+145	+63	+24	▲ 112	▲ 110	+19	+23	+74	+545

<建設機械・車両> 2025年度の売上高とセグメント利益の増減要因の見通し

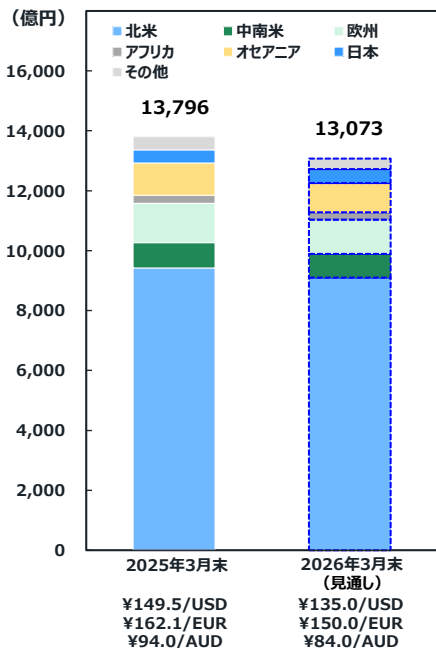
- ・売上高は、販売価格改善のプラス影響があるものの、円高や物量減のマイナス影響により、前年比▲3,582億円の減収。
- ・セグメント利益は、販売価格改善のプラス影響があるものの、円高や米国の関税影響等のコスト増によるマイナス影響により、前年比▲1,709億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は、前年比▲3.4ポイント低下し12.4%。



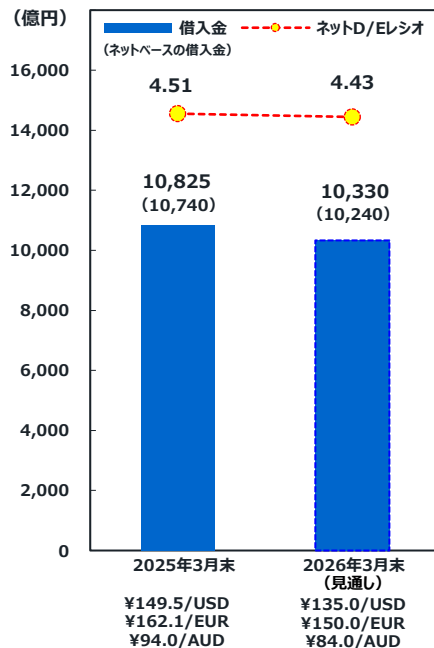
<リテールファイナンス> 2025年度の見通し

- ・資産は、為替を除く実質では微増も、円高の影響により、前年度末比▲723億円の減少。
- ・新規取組高は、円高の影響と前年にあった大口案件がないことなどにより、前年比▲1,929億円減少。
- ・売上高、セグメント利益は、主に円高の影響により、前年比▲157億円の減収、前年比▲54億円の減益。

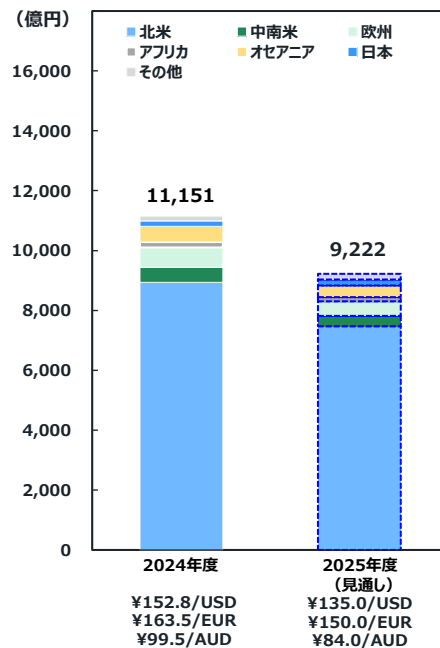
資産
2025年3月末 vs. 2026年3月末
(見通し)



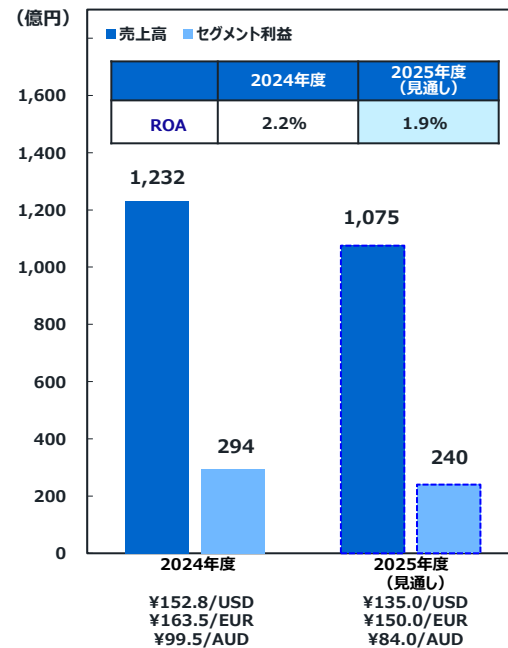
借入金
2025年3月末 vs. 2026年3月末
(見通し)



新規取組高
2024年度 vs. 2025年度
(見通し)



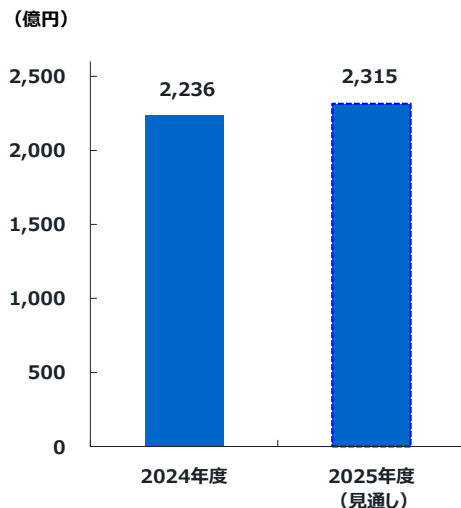
収益
2024年度 vs. 2025年度
(見通し)



<産業機械他> 2025年度の売上高とセグメント利益の見通し

- ・売上高は、前年比+3.5%増収の2,315億円。セグメント利益は、前年比+13.2%増益の310億円。
- ・自動車産業向けの鍛圧機械・板金機械・工作機械では、大型プレスとサービスの売上が増加、半導体産業向けでは、市場回復によりメンテナンス売上を中心に売上が増加し増収増益。
- ・売上高セグメント利益率は、13.4%。

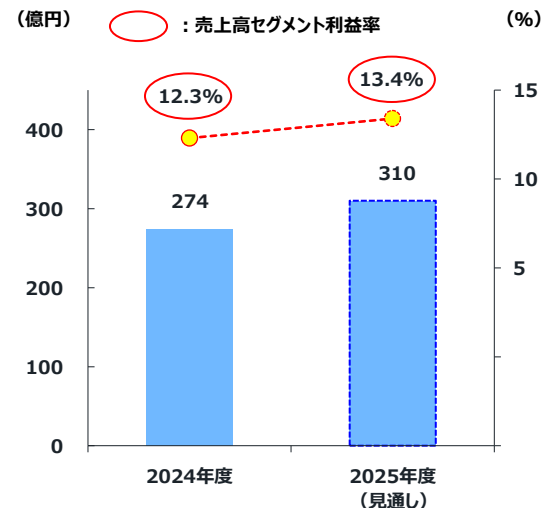
売上高
2024年度 vs. 2025年度（見通し）



売上高の内訳

(億円)	2024年度	2025年度 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機	574	663	+88	+15.4%
コマツNTC	479	464	▲15	▲3.2%
ギガフォトン	598	681	+83	+13.8%
その他	585	508	▲77	▲13.1%
合 計	2,236	2,315	+79	+3.5%

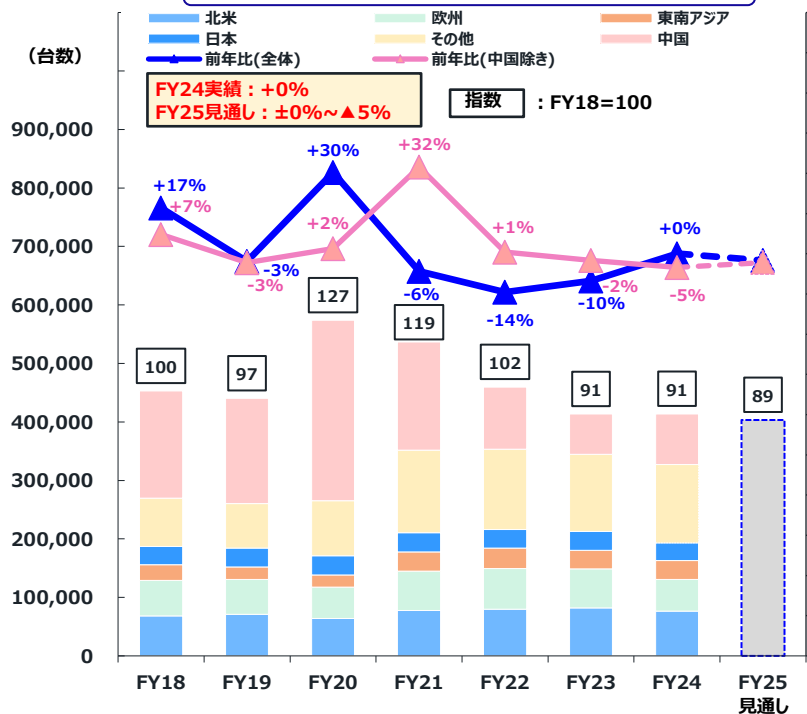
セグメント利益
2024年度 vs. 2025年度（見通し）



＜建設機械・車両＞ 主要7建機の需要推移と見通し

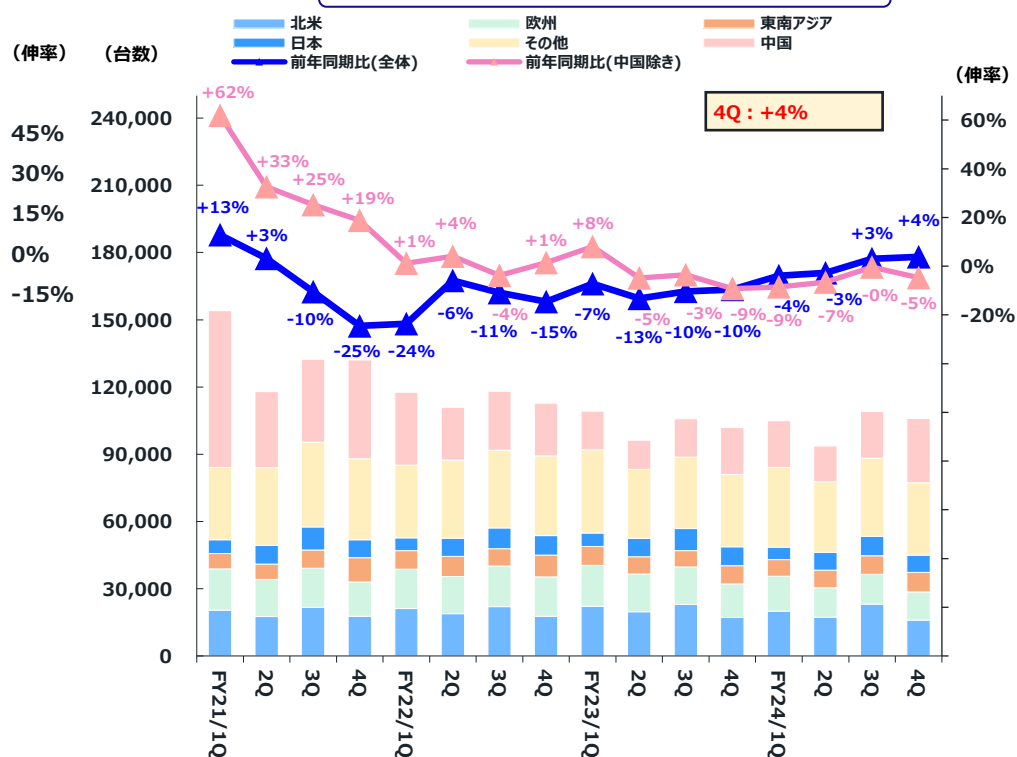
- ・主要7建機の需要台数の定義見直しを実施。中国およびその他の地域で主要7建機に相当する中国メーカー分の需要を加算して集計、表示。
- ・2024年度の需要は、ほぼ前年並み。2025年度の需要は、貿易摩擦の影響が需要に与える影響を織り込み、前年比±0%～▲5%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移



【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

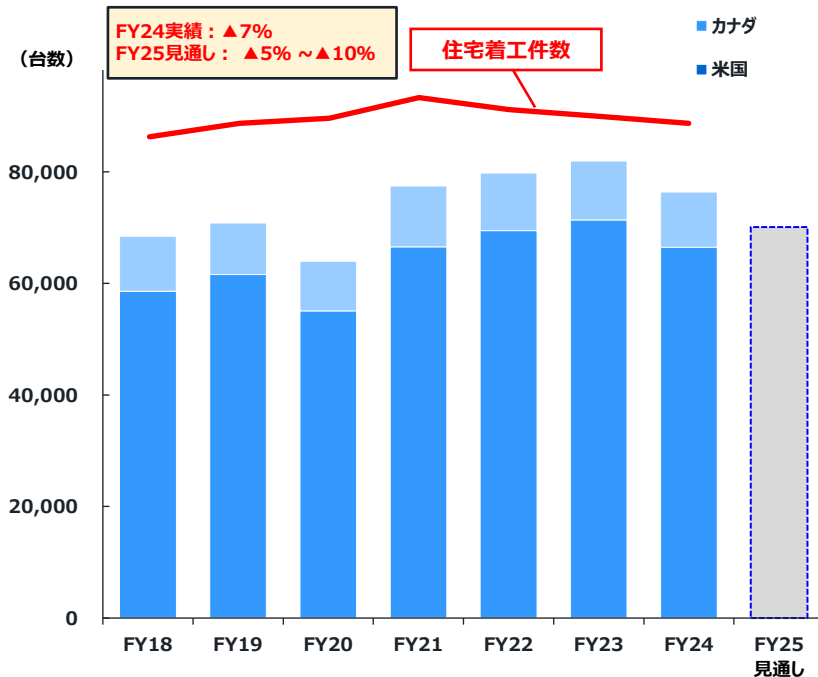
主要7建機 四半期別需要推移



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①北米

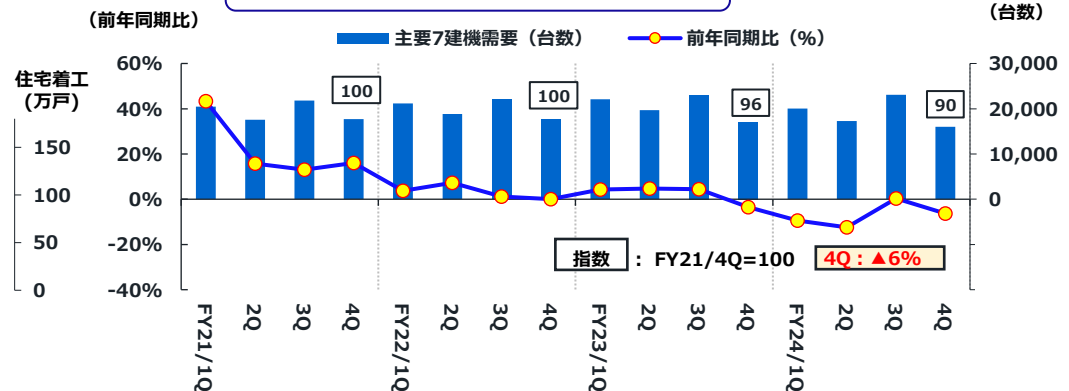
- ・2024年度の需要は、前年比▲7%の減少。住宅着工件数の減少などにより、一般建機の需要はレンタル、エネルギー向けが減少。
- ・2025年度の需要は、前年比▲5%～▲10%の見通し。

主要7建機 需要推移と住宅着工件数

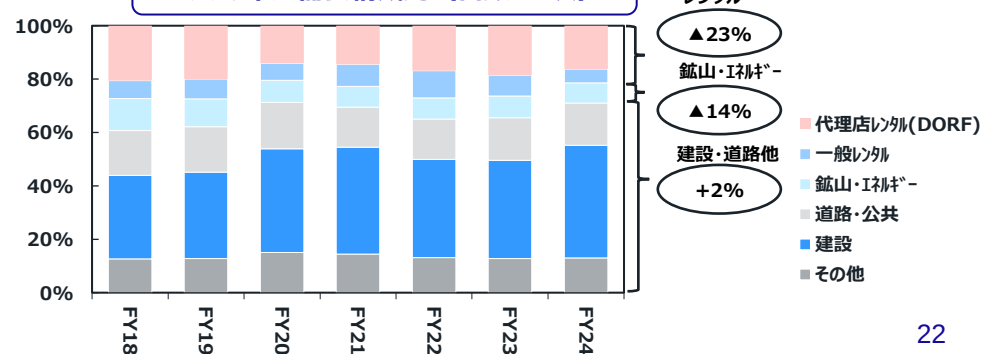


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



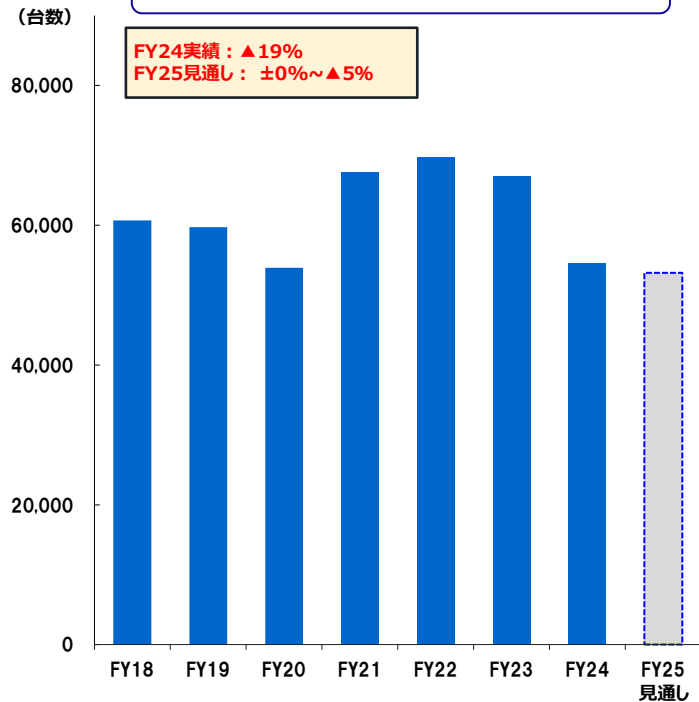
セグメント別需要構成比 (台数ベース)



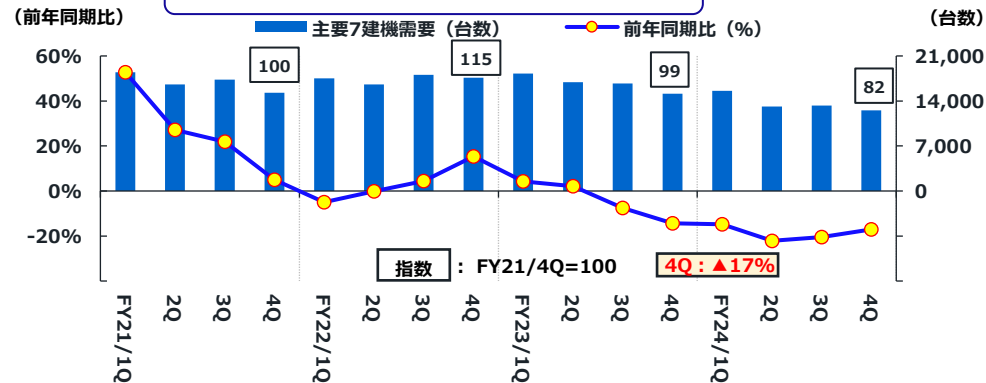
＜建設機械・車両＞主要市場の需要推移と見通し：②欧州

- ・2024年度の需要は、前年比▲19%の減少。主要市場のドイツ、英国、フランスを中心に一般建機の需要が減少。
- ・2025年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し。

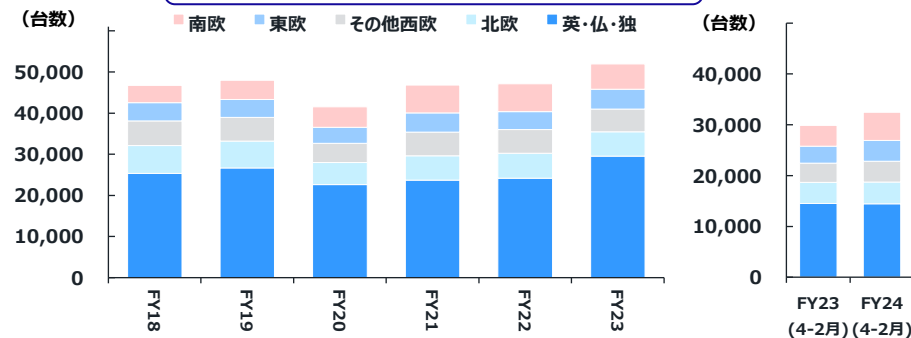
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



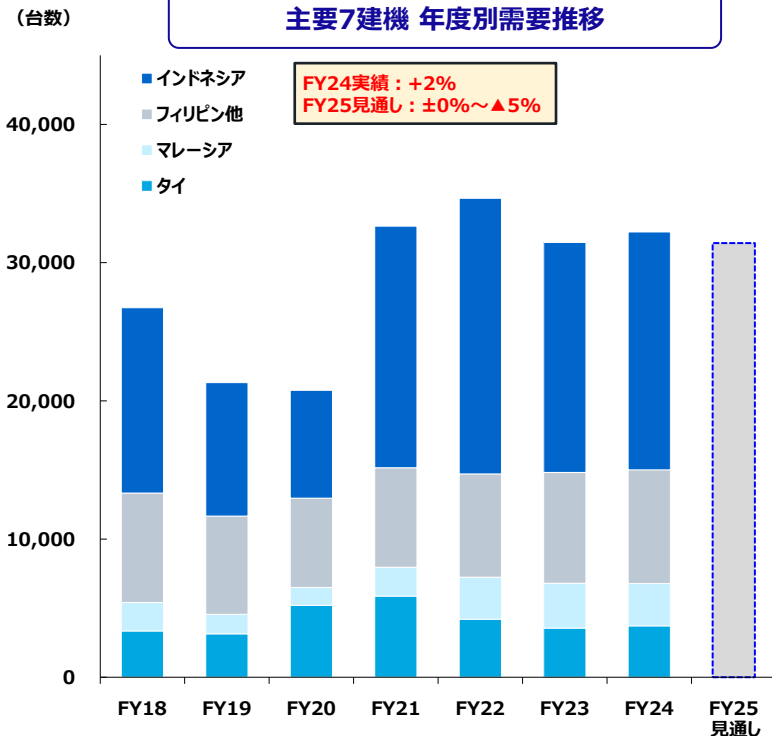
主要7建機 (6クラス除く) 地域別需要



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：③東南アジア

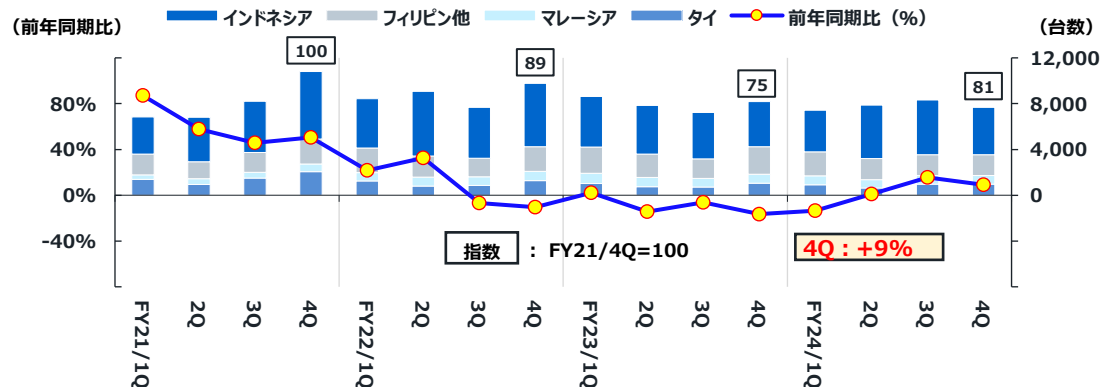
- ・2024年度の需要は、前年比+2%の増加。インドネシアでは一般建機の需要回復が継続、鉱山機械の需要も堅調に推移。
- ・2025年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移

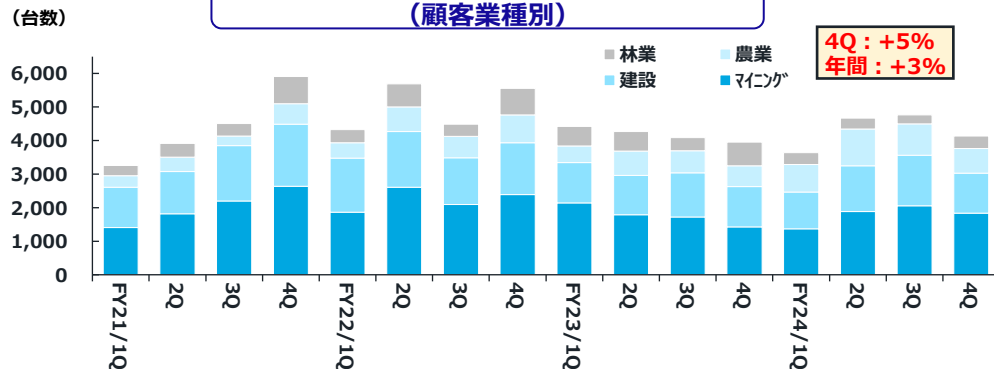


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



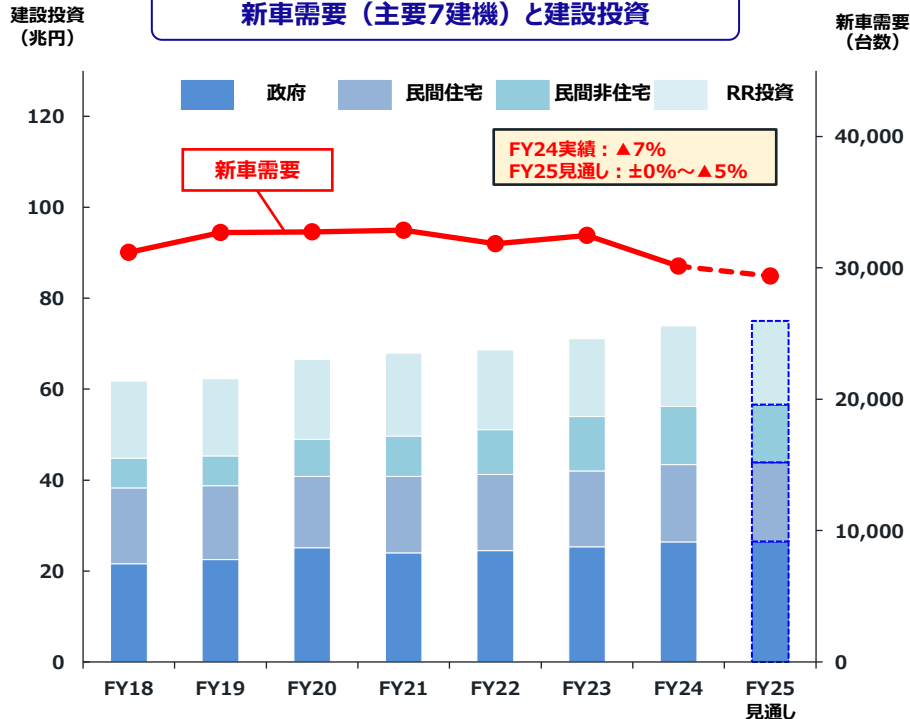
インドネシア：建設・鉱山機械需要推移
(顧客業種別)



＜建設機械・車両＞主要市場の需要推移と見通し：④日本

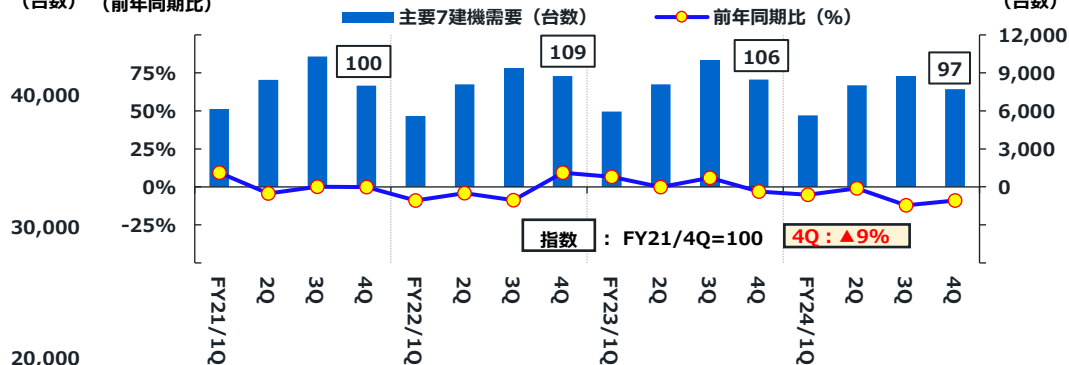
- ・2024年度の需要は、主にレンタル向けが減少し、前年比▲7%の減少。
- ・2025年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し。

新車需要（主要7建機）と建設投資

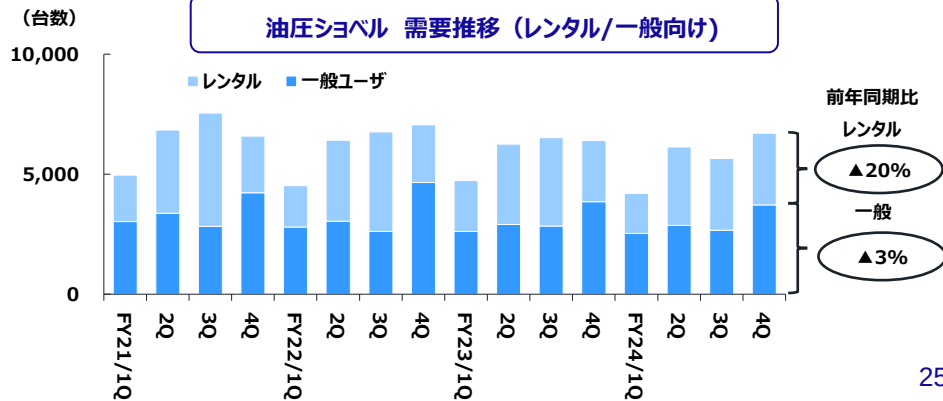


新車需要 (台数) (前年同期比)

主要7建機 四半期別需要推移



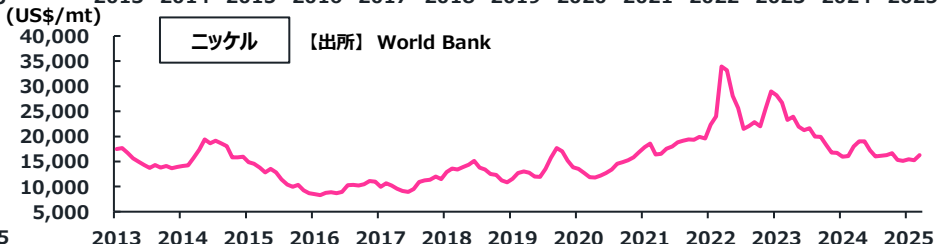
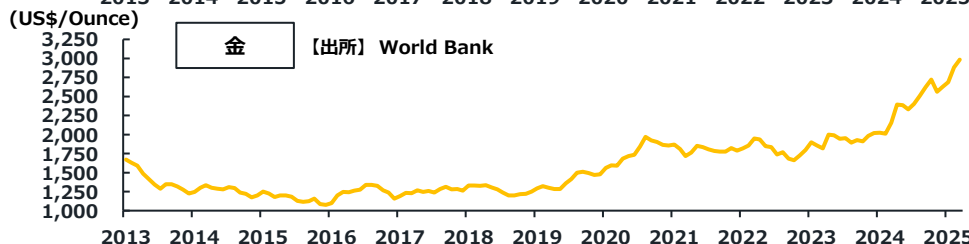
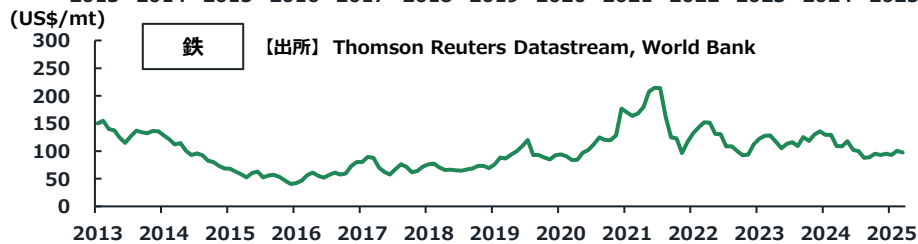
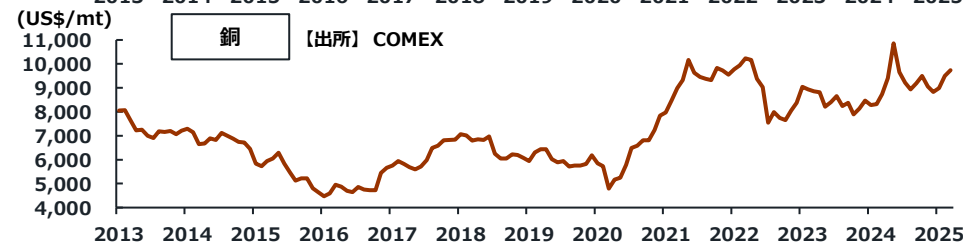
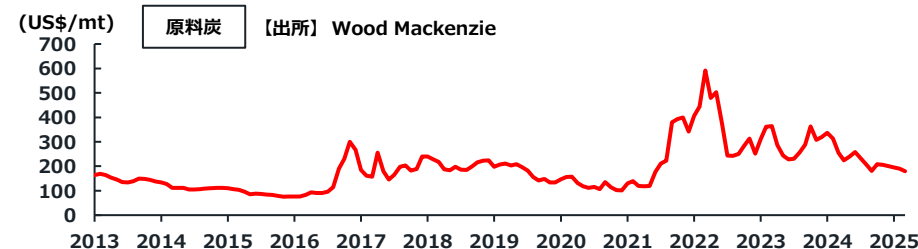
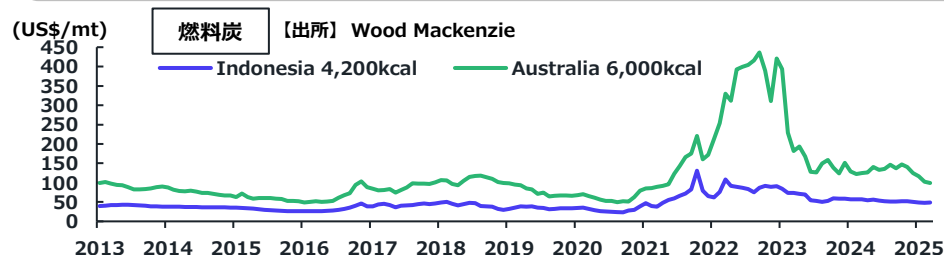
油圧ショベル 需要推移 (レンタル/一般向け)



【出所】主要7建機需要：コマツの推定 建設投資：国土交通省／建設経済研究所

<建設機械・車両> 主要鉱物の価格推移と見通し

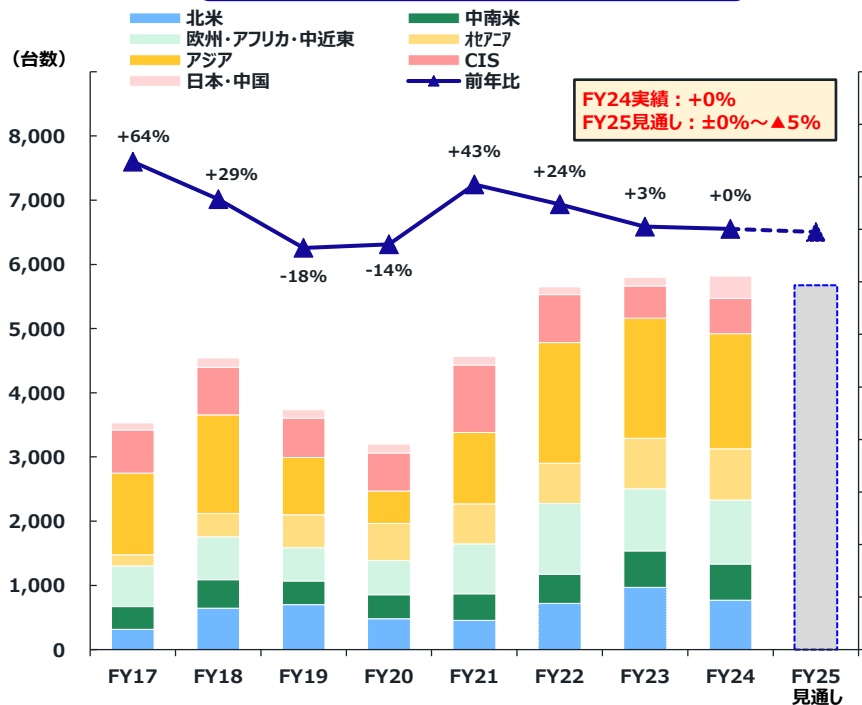
- ・主要鉱物の価格は、足元で変動幅が大きくなっているが、長期的に見ると高値の水準を維持。
- ・燃料炭は、中国の暖冬の影響で価格は下落したが、夏季の電力需要により価格は回復の見込み。
- ・原料炭/鉄鉱石は、中国での需要減を受けて価格は下落傾向、他地域での需要も見込まれるものの、今後の変動幅は大きくなる見込み。
- ・銅は、米国の関税政策の影響で足元で変動幅が大きくなっているが、長期的に見ると高値の水準を維持。



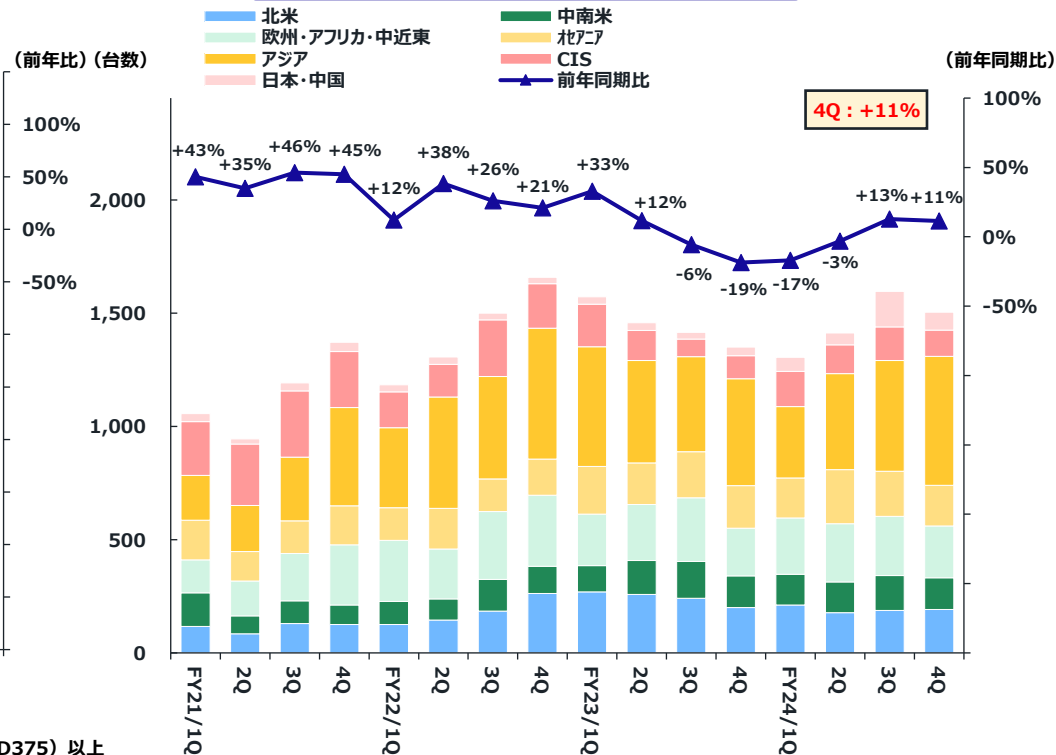
<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

- ・2024年度の需要は、ほぼ前年並み。
- ・2025年度の需要は、前年比±0%～▲5%の見通し。

鉱山機械 年度別需要推移



鉱山機械 四半期別需要推移



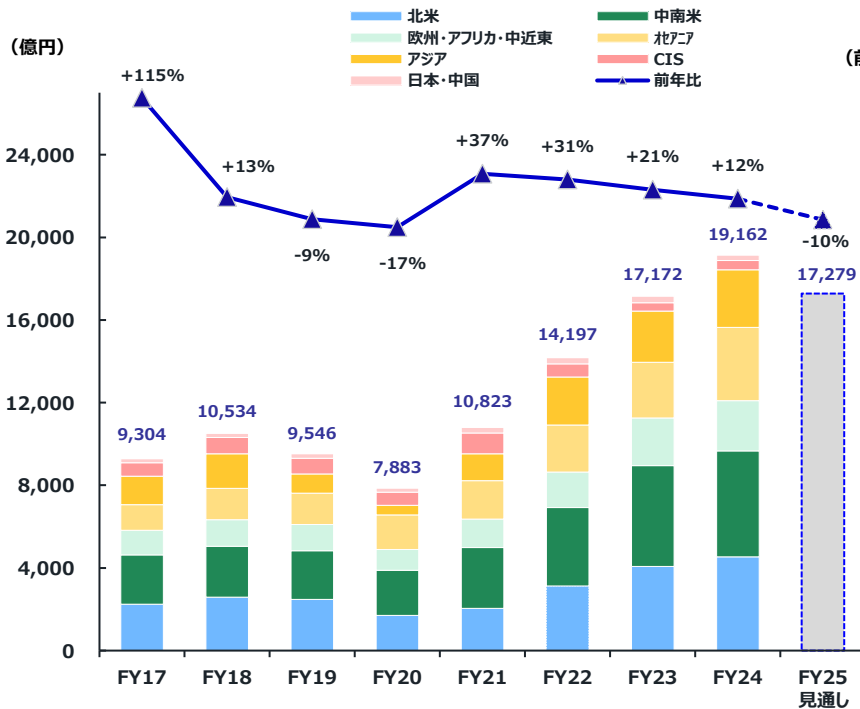
【出所】 コマツの推定

- ・ダンプトラック: 75 t (HD785) 以上
- ・エクスカベーター: 200 t (PC2000) 以上
- ・モータグレーダー: 280HP (GD825) 以上
- ・フルトラクタ: 525HP (D375) 以上
- ・ホイールローダー: 810HP (WA800) 以上

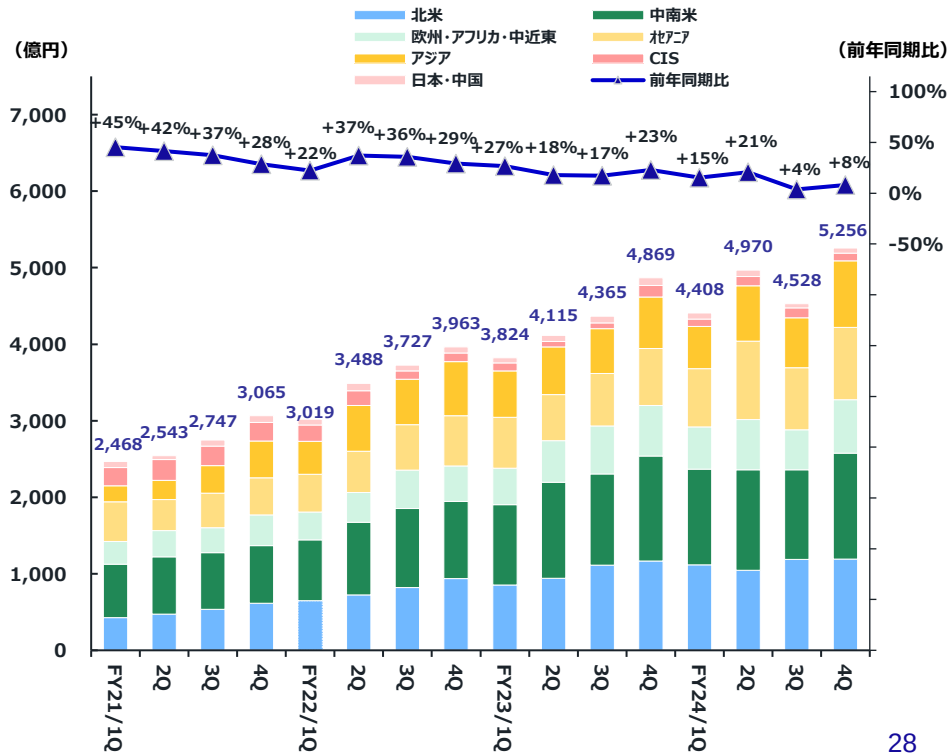
＜建設機械・車両＞ 鉱山機械の売上高（外部顧客向け）の見通し

- ・2024年度の売上高は、前年比+12%増収の1兆9,162億円。
- ・2025年度の売上高は、前年比▲10%減収の1兆7,279億円の見通し。

鉾山機械 年度別売上高（部品・サービス等含む）

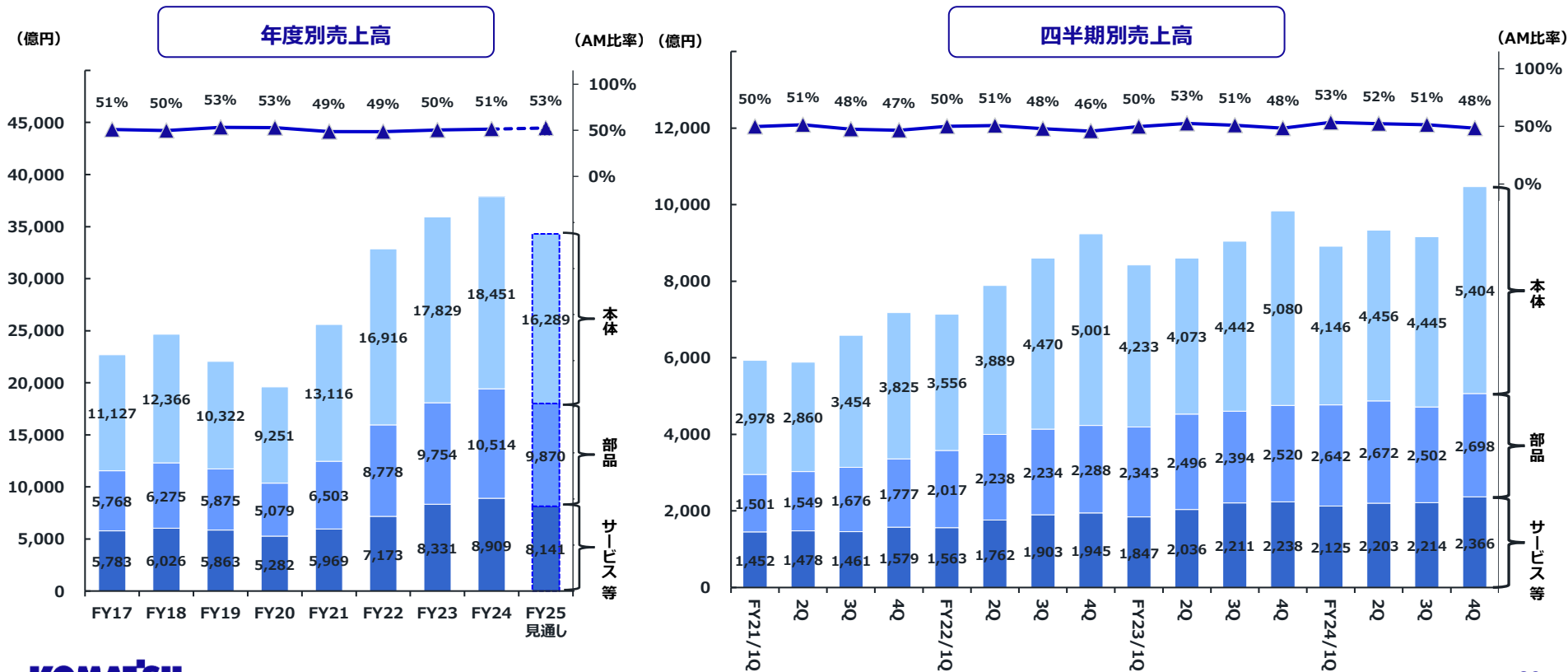


鉾山機械 四半期別売上高（部品・サービス等含む）



<建設機械・車両> 本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）の見通し

- ・2024年度の部品売上高は、前年比+8%増収の1兆514億円。サービス等をあわせたアフターマーケット比率（AM比率）は51%。
- ・2025年度の部品売上高は、前年比▲6%減収の9,870億円の見通し。 サービス等をあわせたアフターマーケット比率は53%の見通し。

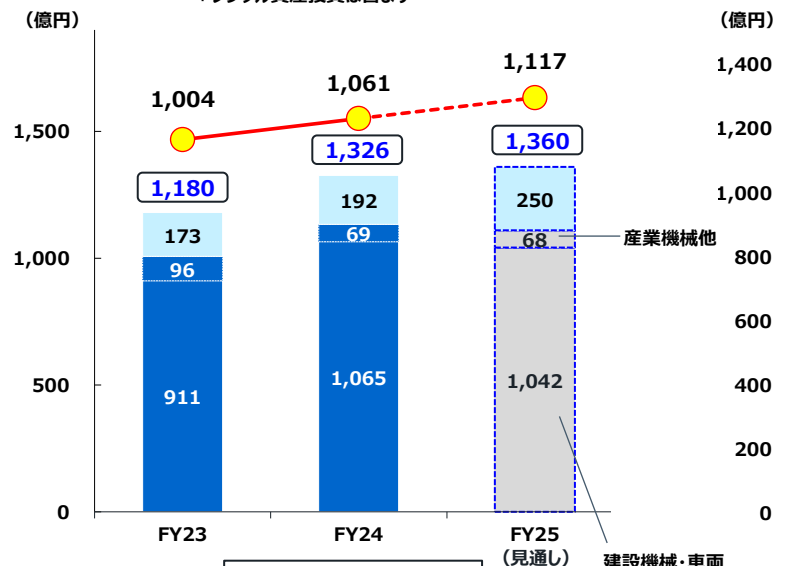


設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

- ・設備投資は、主に生産・販売拠点やソリューションビジネスへの投資を継続し、前年並みとなる見通し。
- ・研究開発費は、電動化・自動化等への重点投資により、前年比増加の見通し。
- ・固定費は、構造改革の効果を織込むも、賃上げによる人件費増加や中計プロジェクトへの投資により、前年比増加の見通し。

設備投資* および減価償却費

*レンタル資産投資は含まず

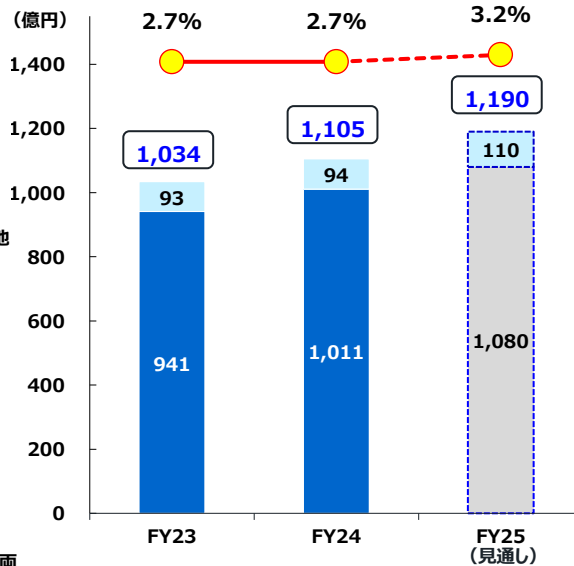


産業機械他

建設機械・車両
及びリテールファイナンス

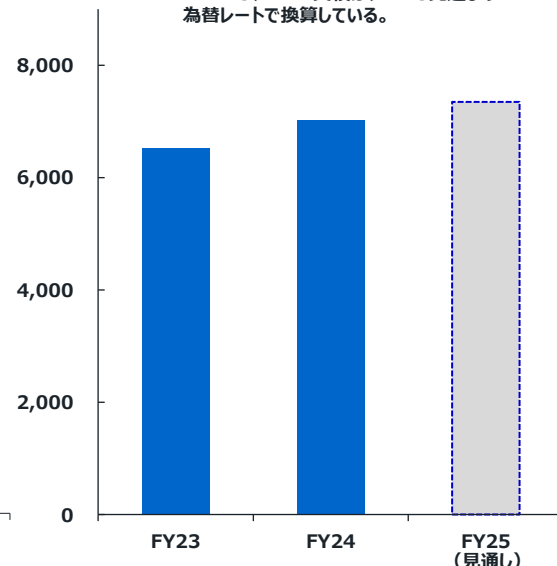
研究開発

(億円)



固定費*

*FY23、FY24実績は、FY25見通しの為替レートで換算している。



「bauma2025」に出展

コマツは、ドイツのミュンヘンで開催された国際的な建設機械見本市「bauma2025」に出展しました。



「bauma2025」に出展

【新世代建機】 中型油圧ショベル PC220LCi-12



【充電・蓄電ソリューション】 メガワット級 急速充電車両



【電動建機】 有線式超大型電動油圧ショベル PC7000



「大阪・関西万博」に出展

コマツは、4月13日から開催している2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」にて「未来の水中工事」をテーマに、青木あすなろ建設（株）と共同出展しています。



Ⅲ.中期経営計画



中期経営計画（2025～2027年度）
Strategic Growth Plan

Driving value with ambition

価値創造への挑戦

代表取締役社長（兼）CEO 今吉 琢也
2025年4月28日

目次

- 中期経営計画の位置づけと前中期経営計画の振り返り

- 中期経営計画

- 1. ありたい姿の再定義

- 2-1. 課題の認識 – 外部環境

- 2-2. 課題の認識 – マテリアリティ

- 2-3. 課題の認識 – まとめ

- 3-1 全体像

- 3-2. 主な重点活動

- 3-3. 事業ポートフォリオ

- 3-4. 経営目標

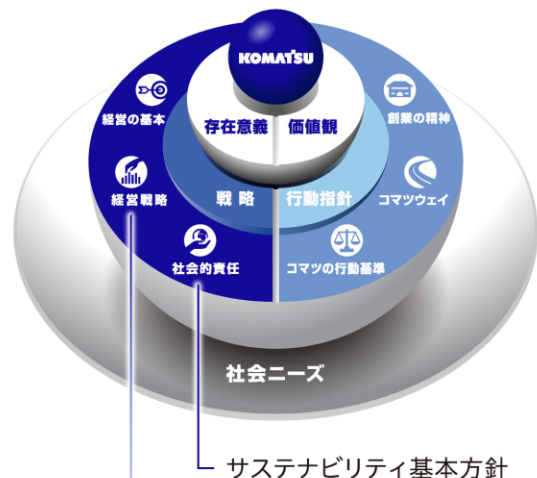
- 4-1. 社会課題解決に向けて – 位置づけ

- 4-2. 社会課題解決に向けて – 「人と共に」「社会と共に」「地球と共に」

中期経営計画の位置づけと 前中期経営計画の振り返り

中期経営計画の位置づけ

中期経営計画は、アイデンティティーに示す存在意義と価値観のもとで実行する経営戦略として策定するものです。



私たちの存在意義

ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、
人、社会、地球が共に栄える未来を切り拓く

私たちの約束

Creating value together

私たちの価値観

挑戦する Ambition

高い志を持ち、失敗を恐れることなく、
革新のために挑戦し続ける

やり抜く Perseverance

困難にあっても決して諦めず、
責任を持って最後までやり遂げる

共に創る Collaboration

多様な価値観や個性を認め合い、
互いに敬意を持ち、win-win 精神で協働することで
新たな価値を創出する

誠実に取り組む Authenticity

常に誠実に正しく行動し、
信頼される存在であり続ける

中期経営計画 2025-2027

2030 年度までの 6 年間を見据えた経営戦略

2030

前中期経営計画の振り返り

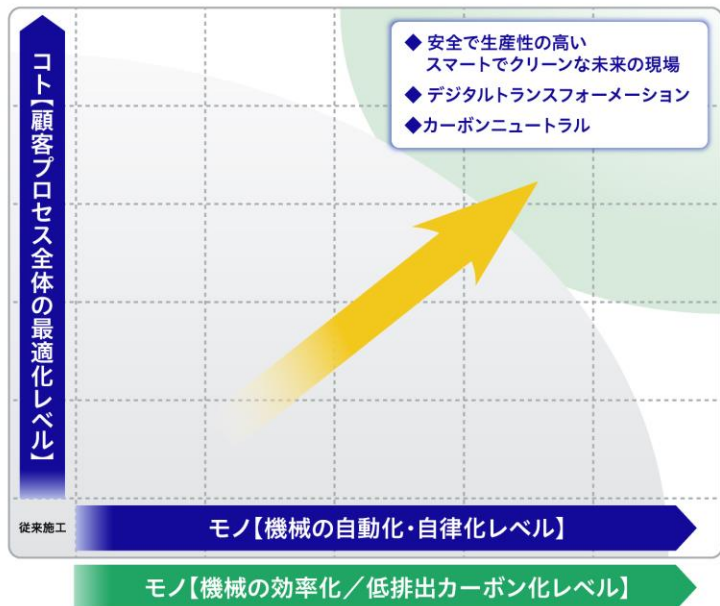
前中期経営計画での重点活動を通じた製品（モノ）とソリューション（コト）の両軸での顧客価値創造（ダントツバリュー）により、
ありたい姿として掲げてきた「安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場」は実現しつつあります。

タイトル

DANTOTSU Value – Together, to “The Next” for sustainable growth

ありたい姿

**安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場を
お客さまと共に実現する**



コト（顧客プロセス全体の最適化）



施工計画最適化アプリ
Smart Construction Simulation
提供開始



鉱山向け無人ダンプ
トラック運行システム(AHS※)
導入800台突破

モノ（機械の自動化・自律化）



3Dマシンガイダンスを標準装備した
新世代油圧ショベルの
国内市場導入



鉱山で遠隔稼働する
大型ICTブルドーザーの
商用稼働開始

モノ （機械の効率化/ 低排出カーボン化）



バッテリー式電動
油圧ショベルの市場導入



試験場でテストを行う
パワーアグノスティックトラックの
コンセプト車

※AHS: Autonomous Haulage System の略

中期経営計画

1. ありたい姿の再定義

新しい中期経営計画では、私たちのありたい姿を「安全で生産性の高いクリーンな現場を実現するソリューションパートナー」と再定義します。

ありたい姿・重点活動

コト価値の進化

スマートコンストラクション[®]の
高度化とグローバル展開

オープンテクノロジープラットフォームの拡大と
アプリの普及



イノベーション・DX

バリューチェーンビジネスの拡大

人材への投資

パートナーシップの拡大



より高度な自動化・遠隔化

多様な動力源への対応



ありたい姿

安全で生産性の高いクリーンな現場を実現する
ソリューションパートナー

コト親和性の高い SDV[※](型)機械の
ラインナップ拡大

モノ価値の進化

※SDV : Software Defined Vehicle の略

2-1. 課題の認識 – 外部環境

複雑さ・不透明さを増す外部環境（政治、経済、環境、技術）の中長期的な変化の方向を予測しました。

中長期トレンド

中長期の世界見通し



政治

自国中心主義の台頭
格差の拡大

- ・政治の不安定化、価値観の揺らぎ
- ・国際協調主義の弱体化

・グローバルサウスの影響力拡大



経済

人口重心と経済重心のシフト
不確実性の増大
(関税含む貿易摩擦、市場分断化等)

- ・経済安全保障の強化
- ・アジア、アフリカの人口増加と経済活性化

・日本の労働力不足と海外各地の人材活用



環境

カーボンニュートラル
ネイチャーポジティブ

- ・カーボンニュートラル、エネルギー移行に向けた前進
- ・気候変動や生物多様性への社会的要請の高まり

・環境データ開示の義務化



技術

グリーン化技術の開発
デジタル技術の開発

- ・バッテリー、水素・アンモニア、合成燃料の技術革新
- ・デジタルインフラの進化と生成 AI 等の活用による DX 加速

・サイバーセキュリティ、AI ガバナンス

2-1. 課題の認識 – 外部環境

中長期的な変化の予測から、各事業への意味合いを抽出しました。

中長期トレンド

各事業における意味合い



政治

自国中心主義の台頭
格差の拡大

マイニング

- ・脱炭素 / 自動化ニーズの高まり
- ・長期的な石炭需要減少・工法変化への対応



経済

人口重心と経済重心のシフト
不確実性の増大
(関税含む貿易摩擦、市場分断化等)

コンストラクション ・ 林業機械

- ・成長市場での顧客ニーズ対応
- ・労働者不足、業務効率化、コスト削減に対するソリューションニーズの更なる高まり
- ・林業就労人口減少による機械化と環境に配慮した森林管理ソリューションの提供



環境

カーボンニュートラル
ネイチャーポジティブ

産業機械他

- ・電気自動車(EV)は成長鈍化するも中長期的には拡大、ギガキャスト等新技術への対応、収益性向上
- ・経済安全保障への対応と半導体市場拡大 / 長期視点での半導体市場の技術革新への対応



技術

グリーン化技術の開発
デジタル技術の開発

すべての事業

- ・国 / 地域により多様化する規制対応
- ・グローバルで迅速な意思決定の必要性
- ・人材獲得 / 社員エンゲージメントの重要性の高まり

2-2. 課題の認識 – マテリアリティ

新たにダブル・マテリアリティの観点からマテリアリティ分析を行い、「ビジネスへの影響」と「環境・社会への影響」の2側面から当社の課題を洗い出しました。

マテリアリティマップ



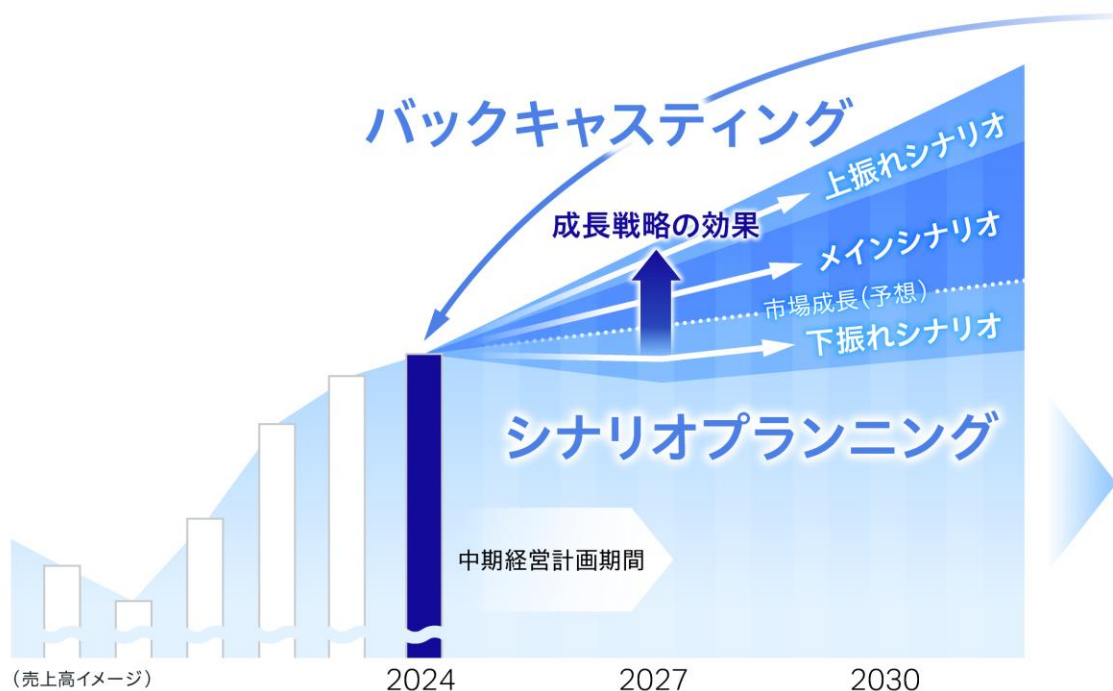
マテリアリティ分析:2024 年 2 月～ 3 月にかけて実施。BSR 社により、社内外 26 名のステークホルダーにインタビュー実施。(社外は、機関投資家、国連開発計画、環境団体(一般財団法人 地球・人間環境フォーラム)、顧客、協力企業など。社内は、国内外の役員を対象)

具体的な課題

● 社員	① 労働安全衛生ウェルビーイング ② 人材獲得、能力開発と職場定着	③ 公正な労働慣行 ④ D&I
● 人権	⑤ 人権の尊重	
● 顧客	⑥ 現場の最適化による顧客価値創造 ⑦ 製品の安全・品質 ⑧ バリューチェーンの継続性	⑨ AI 活用と DX 推進 ⑩ 競争力の源泉・収益力確保のための事業戦略
● 倫理・統治	⑪ プライバシーとデータ保護、サイバーセキュリティ ⑫ 事業の変化に合わせたガバナンス ⑬ コンプライアンス	
● 地域社会	⑭ 地域社会への貢献	
● 環境	⑮ 気候変動対策 ⑯ 資源循環	⑰ ネイチャーポジティブ ⑱ 事業を通じた森林保全への貢献

2-3. 課題の認識 – まとめ

建設・鉱山機械の需要は中長期的には緩やかな成長を想定するものの、ボラティリティの高い状況が続くことが見込まれます。
2030年度までを見据えた3年間の成長戦略策定に向けて、「ありたい姿」からのバックカスティングとシナリオプランニングにより経営課題を特定しました。



ありたい姿

**安全で生産性の高いクリーンな現場を実現する
ソリューションパートナー**

業界水準を上回る成長に向けた重要な経営課題

1

**将来を見据えた
投資の継続**

2

**収益体質の
更なる強化**

3

経営基盤のレジリエンス向上

3-1. 全体像

コマツの価値観の一つである「挑戦」をキーワードに、「Driving value with ambition」を中期経営計画のタイトルとし、成長戦略3本柱を策定しました。

ありたい姿

安全で生産性の高いクリーンな現場を実現するソリューションパートナー

タイトル

Driving value with ambition 価値創造への挑戦

成長戦略3本柱

1 イノベーションによる価値共創 将来への投資

- ・ 戦略的投資、新技術やビジネス領域の開拓、ソリューションを通じた新たな価値の共創
- ・ カーボンニュートラルや顧客現場の最適化に向けた AI 等の活用による革新的なモノ・コトづくり

2 成長性と収益性の追求 収益体質

- ・ 現場オペレーション高度化の実現による成長と収益性の向上
- ・ バリューチェーンビジネスの拡大と AI 活用・DX による省人化・効率化
- ・ 事業・地域・国ごとのマーケティング戦略の最適化による成長

3 経営基盤の革新 レジリエンス

- ・ 事業成長を支える人材の獲得・活躍の推進
- ・ ブランディング活動拡充によるブランド強化
- ・ AI活用・DXによるビジネス基盤(システム、プロセス)の効率化への大胆かつアジャイルな取り組み

3-2. 主な重点活動

成長戦略3本柱における主な重点活動は以下の通りです。

	マイニング	コンストラクション	林業機械	産業機械他
1 イノベーションによる 価値共創	多様な動力源への対応	・脱炭素化エコシステム戦略の更なる加速	・カーボンニュートラルに向けた商品開発の加速	・電動化対応に向けた HEV・BEV 車両開発
	より高度な自動化・遠隔化	・コト親和性が高い SDV(型) 機械の開発 ・鉱山オペレーションの自動化推進 (AHSの進化を含む)	・無人化施工の実現に向けた自動化・遠隔化	・周囲検知を伴う森林内自律走行技術の開発
	・オープンテクノロジープラットフォームの拡大とアプリの普及	・スマートコンストラクション®の拡大に向けたサポート体制構築 ・次世代コンポーネント競争力向上	・林業ソリューションビジネスモデルの構築 ・循環型林業に貢献する植林 / 育林技術・機械の普及	・エキシマレーザ発振周波数・出力パワー増加対応 ・熱電素子による発電ユニットの性能向上
2 成長性と収益性の追求	地域別の商品力・サポート力強化	・マイニング新興国市場での事業拡大 (アフリカ、中近東等)	・商品企画強化 (アジア、アフリカ等) ・マーケティングの中核拠点による顧客・代理店サポート強化 (アフリカ)	・FTL※商品ラインナップの拡大 (北米) ・林業新興国市場の開拓 (アジア、東欧等)
	アフターマーケット強化	・リマン・リビルド事業の拡大 ・アタッチメント・足回り部品 (GET/UC) の拡販	・キーコンポーネント戦略の強化 ・コンストラクションでのライフサイクル安心サポート構築とマイニング・林業機械への展開	・鍛圧機械・板金機械におけるアフターサービス深化 ・Komtraxコンテンツ拡充による現場の課題解決
	・ハードロック分野の商品・販売網の拡大と坑内掘り新工法開拓	・DX推進と代理店強化による顧客価値の向上 (北米)	・CTL**の欧州、米州等での更なる拡販 ・林地内通信ネットワーク構築による DX 推進	・車載電池事業の工程拡充戦略と拡販
3 経営基盤の革新	- 多様な個性が地域のみならずグローバルに輝ける環境の実現 - ブランド認知度向上 - ERM(全社的リスク管理)、BCP(サイバーセキュリティ / 規制対応)		- 基幹システム刷新によるグループ全体での最適な統合環境の構築 - AI活用・DXによる代理店向けソリューションプラットフォームの開発・導入 - 経営のレガシーの見直し(事業・機能・地域の3軸を意識した経営、伝統 / 戦略市場の区分の廃止)	

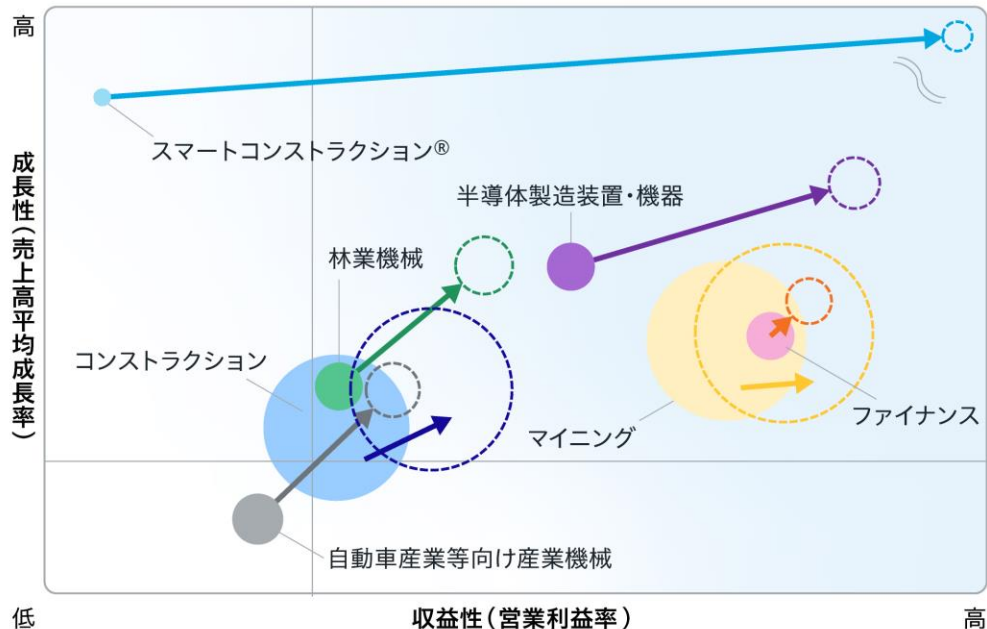
※FTL(Full Tree Length) 工法：切り倒した樹木をそのまま搬出、別の場所で定尺の丸太に加工

※CTL(Cut To Length) 工法：切り倒した樹木を森林内で定尺の丸太に切ってから搬出

3-3. 事業ポートフォリオ

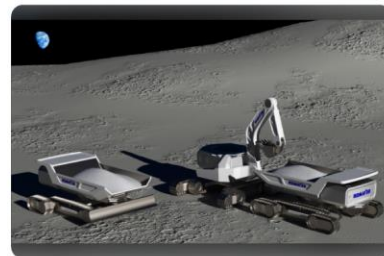
中期経営計画の取り組みを通じた既存事業の拡大と同時に、長期的な成長に向けた新たな事業領域の探索も進めていきます。

事業ポートフォリオ



- ・色塗りバブルは、各事業セグメントの直近の売上規模を示す
- ・点線バブルは、各事業セグメントが目指す中長期の方向性を示す

将来事業領域の探索



月面建設機械



水中施工ロボット



鉱山全体最適化



森林デジタルツイン構築

3-4. 経営目標

中期経営計画期間の経営目標を下表のとおり定めました。

財務区分においては、収益を確保し積極的な成長投資を行うためにフリー・キャッシュ・フロー（FCF）を追加しました。また、リテールファイナンス事業におけるD/Eレシオの目標は、レバレッジを効かせ、6倍以下としました。

非財務区分においては、社会課題解決の観点から、30項目のKPIの達成度の総合評価とCO₂排出削減等による環境負荷低減を目標とします。

区分	項目	経営指標	経営目標
財務	成長性	売上高成長率	業界水準を超える成長率
	収益性	営業利益率	業界トップレベルの利益率
		FCF	3年累計：1兆円（M&A関連の支出を除く）
		ROE	10%以上
	リテールファイナンス事業	ROA	1.5%～2.0%
		ネットD/Eレシオ	6倍以下
	株主還元	連結配当性向	・連結配当性向を40%以上とする ・財務の健全性、株主資本比率他を総合的に勘案して自己株式の取得を適時に実施する
非財務	社会課題解決	社会課題解決KPI	社会課題解決KPI（30項目）の達成度を総合評価（外部評価を含む）
		環境負荷低減	・CO ₂ 排出削減 自社排出(総量)：2030年 50%減(2010年比) 製品使用による排出(原単位)：2030年 50%減(2010年比) <チャレンジ目標>2050年カーボンニュートラル ・再生可能エネルギー使用率：2030年 50%

4-1. 社会課題解決に向けて – 位置づけ

サステナビリティ基本方針の趣旨に立ち返り、成長戦略を通じて社会課題解決と収益向上の好循環を生み出し、持続的成長を目指します。マテリアリティの観点から特に重要な活動はKPIを設定し、進捗を管理します。詳細は、統合報告書にて開示予定です。



4-2. 社会課題解決に向けて－「人と共に」「社会と共に」「地球と共に」

区分	マテリアリティ	主な活動テーマ	KPI
人と共に 	● 社員	安全で安心な職場環境の構築と社員の健康維持・増進	休業災害度数率(100万時間当たり)
	● 人権	多様な個性が地域のみならず グローバルに輝ける環境の実現	① 女性正社員比率(グローバル) ② 女性管理職比率(グローバル)
社会と共に 	● 顧客 ● 倫理・統治 ● 地域社会	製品安全性の向上	安全装置の企画・開発・市場導入
		スマートコンストラクション®による建設現場の生産性向上	ICT施工向け建機※化率
		持続可能な資源開発を実現するソリューションの提供 (マインング)	鉱山向け無人ダンプトラック運行システム(AHS)累計導入台数 ハードロック事業売上高
		安全性・生産性向上を実現するソリューションの提供 (自動化・自律化・遠隔操作化開発)	建設・鉱山機械の自動化・遠隔化の更なる加速
		環境・需要変動に対応力のあるバリューチェーンの構築	アフターマーケット事業売上高伸び率
		社会貢献活動の継続	社会貢献活動の継続(地域貢献、地雷除去、災害復興支援等)
地球と共に 	● 環境	カーボンニュートラルへの取り組み	生産によるCO ₂ 削減率 製品稼働時のCO ₂ 削減率
		事業活動による環境負荷低減(産機事業)	熱電素子による発電ユニットの販売台数
		持続可能な循環型林業を支援するソリューション提供	① 林業機械事業全体売上高伸び率 ② 植林機械年間販売による植林本数の伸び(植林機による植林能力本数増分)
		循環型ビジネスの促進	リマン・リビルド売上高伸び率

※3D マシンコントロール、3D マシンガイダンス機能を搭載した油圧ショベル、ブルドーザー

参考資料

【参考資料】2024年度 第4四半期（1-3月）決算の概況

- ・売上高は、前年同期比+7.2%増収の1兆1,471億円。
- ・営業利益は、前年同期比+24.3%増益の1,911億円。売上高営業利益率は、+2.3ポイント上昇し16.7%。
- ・純利益は、前年同期比+45.3%増益の1,295億円。

金額単位：億円	2024年1-3月 ¥146.9/USD ¥159.3/EUR ¥97.0/ AUD	2025年1-3月 ¥154.7/USD ¥159.4/EUR ¥95.7/AUD	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	10,701	11,471	+770	+7.2%
セグメント利益	1,545	1,959	+414	+26.8%
その他の営業収益（▲費用）	▲ 7	▲ 48	▲ 41	-
営業利益	1,538	1,911	+373	+24.3%
売上高営業利益率	14.4%	16.7%	+2.3ポイント	-
その他の収益（▲費用）	▲ 84	▲ 144	▲ 60	-
税引前四半期純利益	1,454	1,766	+313	+21.5%
当社株主に帰属する四半期純利益	892	1,295	+404	+45.3%

【参考資料】2024年度 第4四半期（1-3月）の各セグメント売上高と利益

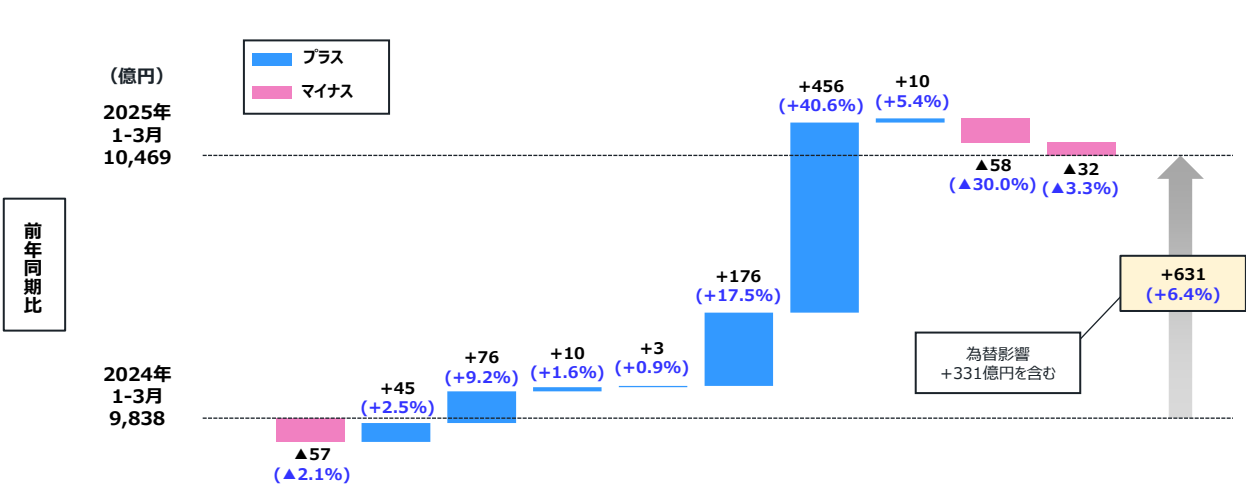
- ・建設機械・車両部門の売上高は、前年同期比+6.1%増収の1兆499億円。セグメント利益は、前年同期比+20.7%増益の1,739億円。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、前年同期比+8.1%増収の312億円。セグメント利益は、前年同期比+37.4%増益の76億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期比+19.9%増収の769億円。セグメント利益は、前年同期比約2.7倍の123億円。

金額単位：億円				前年同期比	
				増減	増減率
売上高		10,701	11,471	+770	+7.2%
	建設機械・車両	(9,838) 9,894	(10,469) 10,499	(+631) +605	(+6.4%) +6.1%
	リテールファイナンス	(227) 289	(246) 312	(+19) +23	(+8.5%) +8.1%
	産業機械他	(636) 641	(756) 769	(+120) +128	(+18.9%) +19.9%
	消去	▲ 122	▲ 109	+14	-
セグメント利益		14.4% 1,545	17.1% 1,959	+2.7ポイント +414	+26.8%
	建設機械・車両	14.6% 1,441	16.6% 1,739	+2.0ポイント +298	+20.7%
	リテールファイナンス	19.2% 55	24.4% 76	+5.2ポイント +21	+37.4%
	産業機械他	7.2% 46	16.0% 123	+8.8ポイント +77	+167.8%
	消去または全社	2	21	+18	-

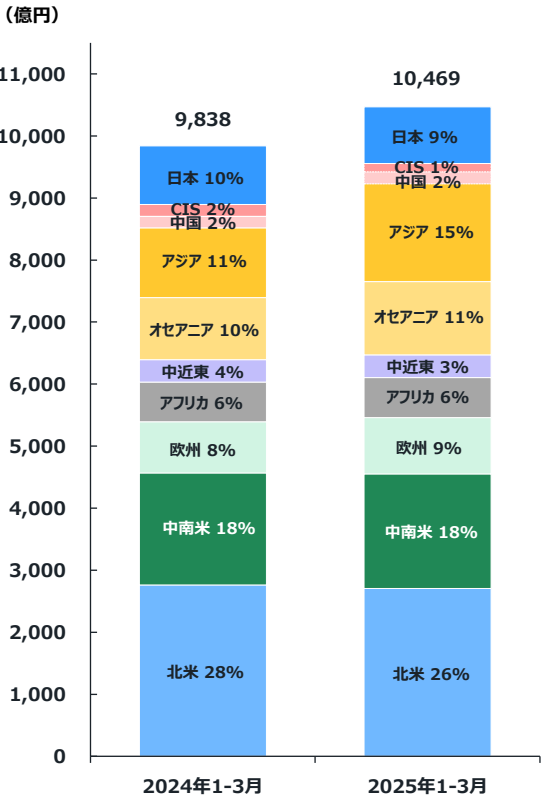
% : 利益率 (): 外部顧客向け売上高

【参考資料】＜建設機械・車両＞2024年度 第4四半期（1-3月）の地域別売上高（外部顧客向け）

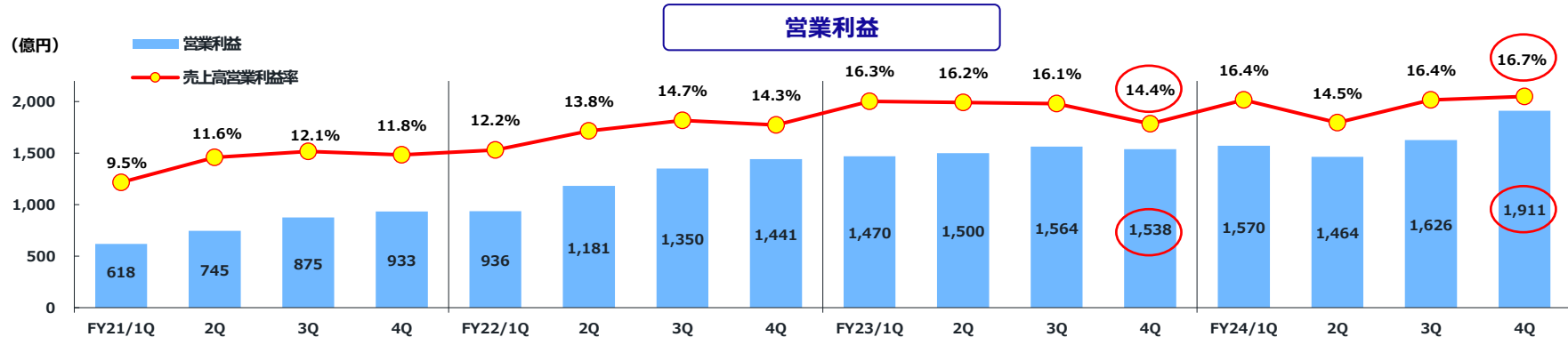
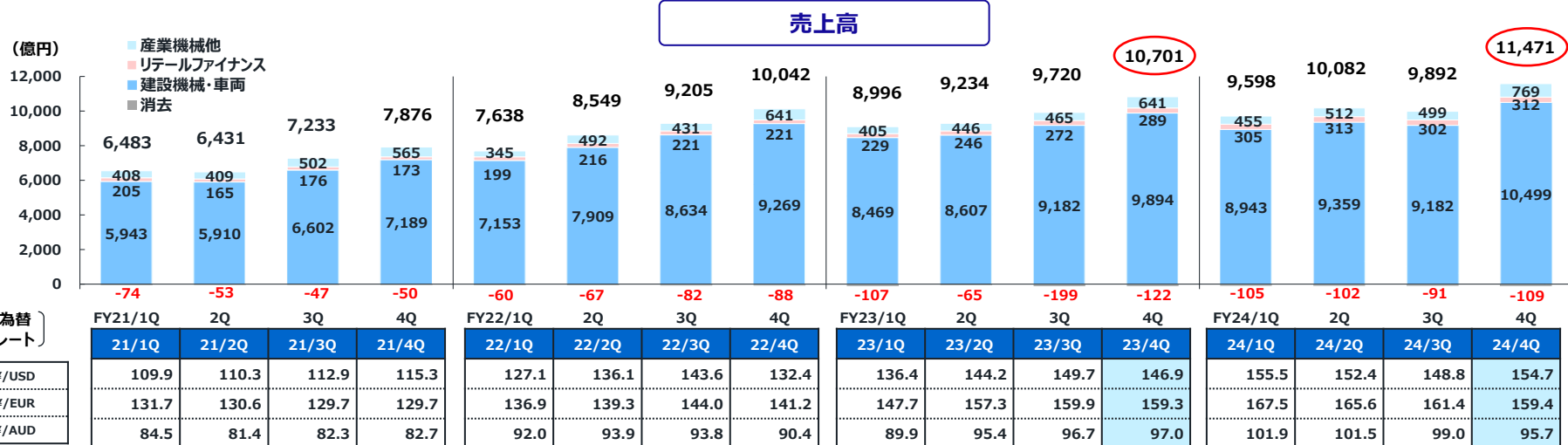
・外部顧客向け売上高は、前年同期比+6.4%増収の1兆469億円。



(億円)	米州		欧州	アフリカ	中近東	オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2024年 1-3月	2,761	1,804	829	639	358	1,005	1,122	184	192	944	9,838
2025年 1-3月	2,705	1,849	905	649	361	1,182	1,579	193	135	912	10,469
増減	▲ 57	+45	+76	+10	+3	+176	+456	+10	▲ 58	▲ 32	+631
増減 (為替影響除き)	▲ 191	▲ 42	+72	▲ 12	▲ 12	+183	+387	+3	▲ 57	▲ 32	+300



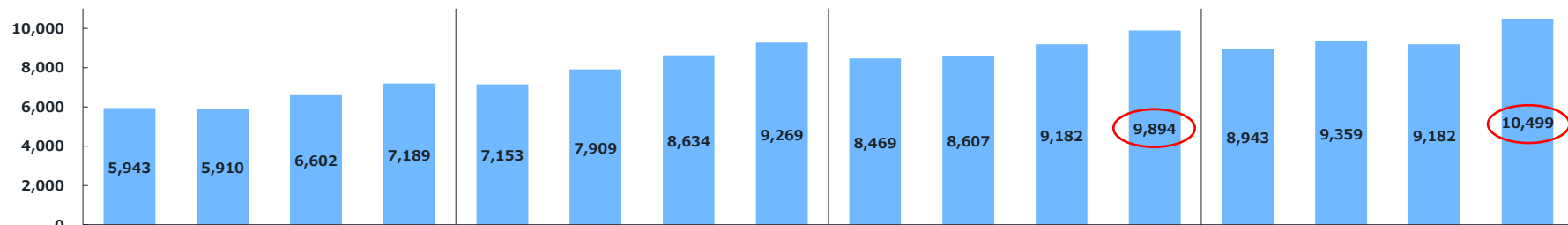
【参考資料】四半期毎の売上高と営業利益の推移



【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高

(億円)

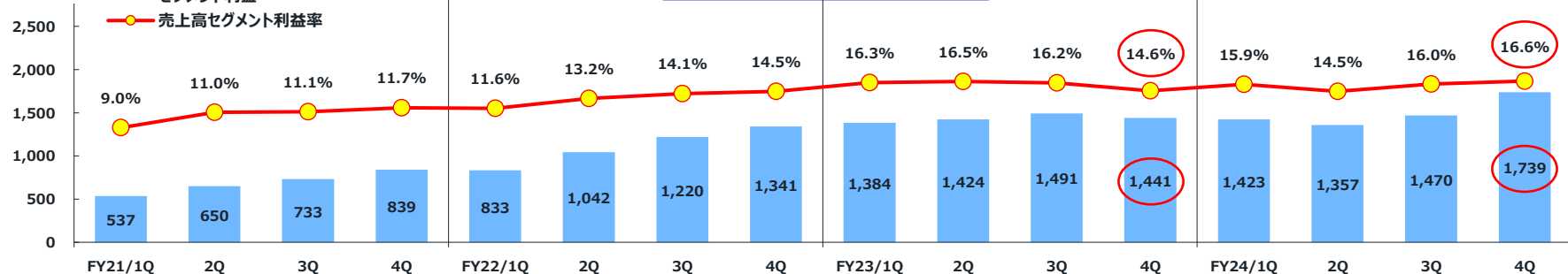


(為替
レート)

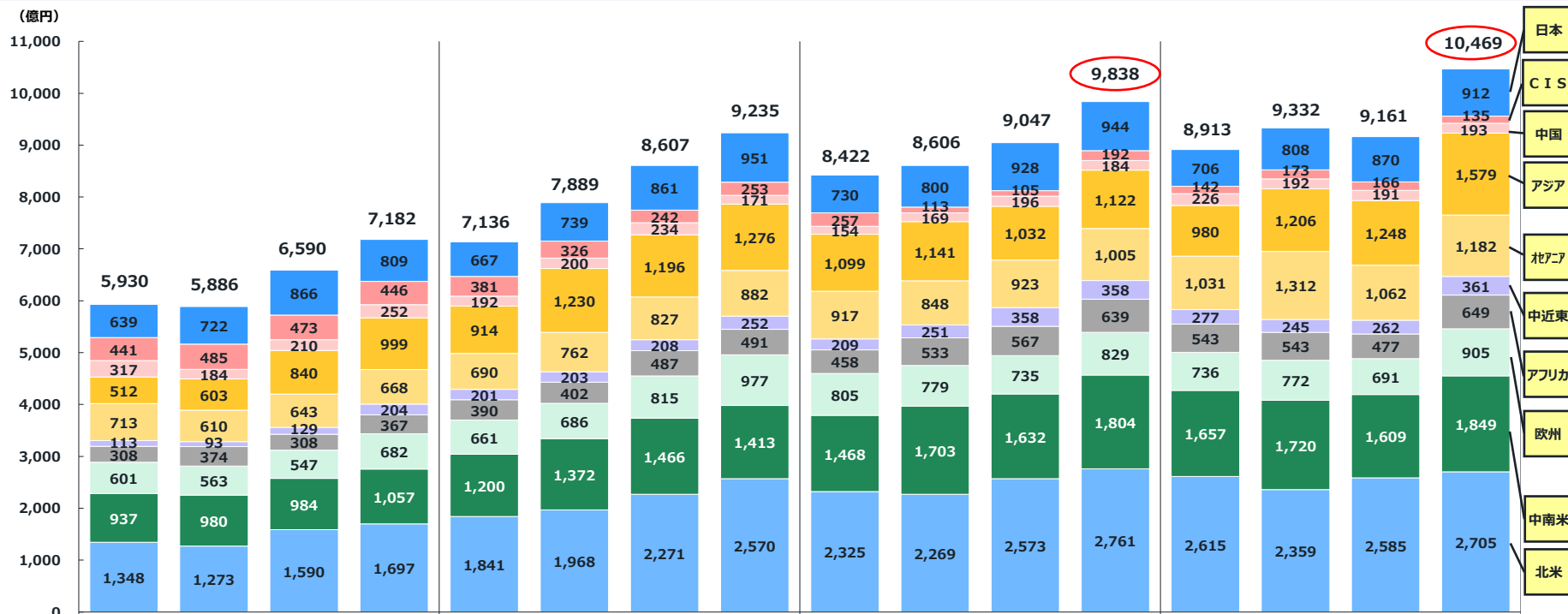
	FY21/1Q				FY22/1Q				FY23/1Q				FY24/1Q			
	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q	24/1Q	24/2Q	24/3Q	24/4Q
¥/USD	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1	143.6	132.4	136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7
¥/EUR	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3	144.0	141.2	147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4
¥/AUD	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9	93.8	90.4	89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7

セグメント利益

(億円)



【参考資料】＜建設機械・車両＞ 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）



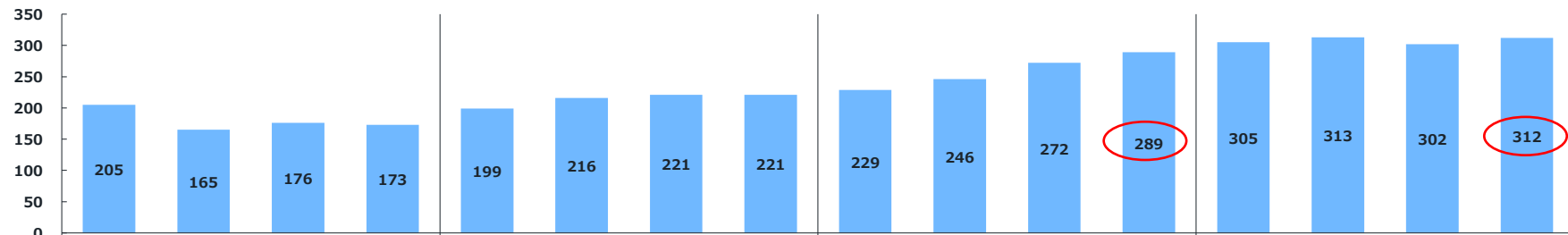
為替
レート

	FY21/1Q				FY22/1Q				FY23/1Q				FY24/1Q			
	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q	24/1Q	24/2Q	24/3Q	24/4Q
Y/USD	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1	143.6	132.4	136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7
Y/EUR	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3	144.0	141.2	147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4
Y/AUD	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9	93.8	90.4	89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7

【参考資料】＜リテールファイナンス＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高

(億円)

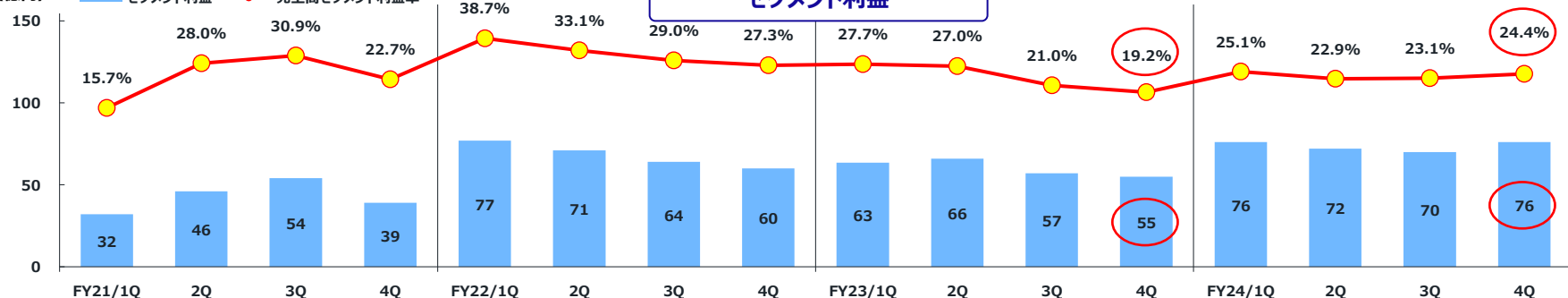


為替
レート

	21/1Q	21/2Q	21/3Q	21/4Q	22/1Q	22/2Q	22/3Q	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/3Q	23/4Q	24/1Q	24/2Q	24/3Q	24/4Q
¥/USD	109.9	110.3	112.9	115.3	127.1	136.1	143.6	132.4	136.4	144.2	149.7	146.9	155.5	152.4	148.8	154.7
¥/EUR	131.7	130.6	129.7	129.7	136.9	139.3	144.0	141.2	147.7	157.3	159.9	159.3	167.5	165.6	161.4	159.4
¥/AUD	84.5	81.4	82.3	82.7	92.0	93.9	93.8	90.4	89.9	95.4	96.7	97.0	101.9	101.5	99.0	95.7

セグメント利益

(億円)

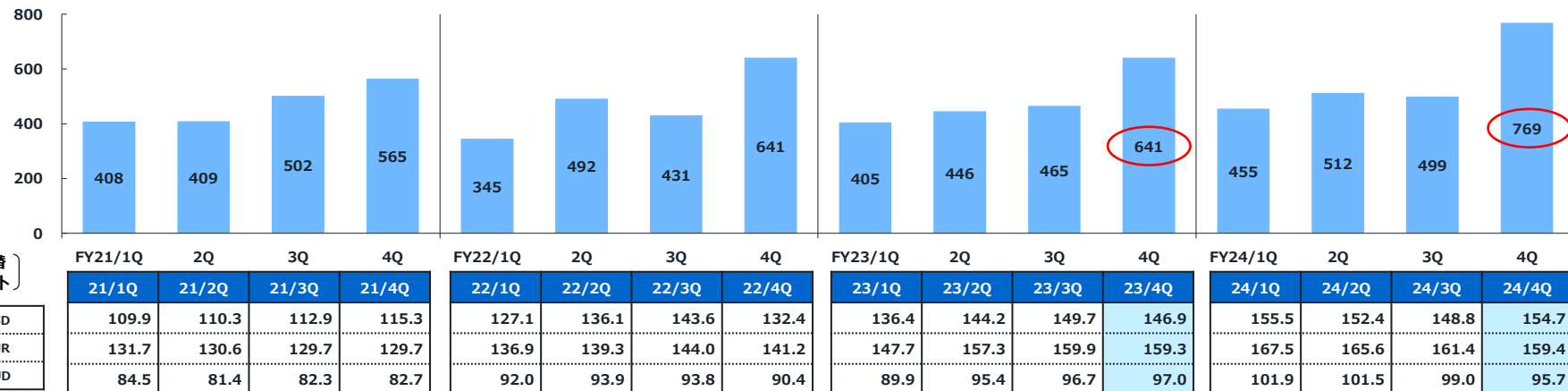


【参考資料】＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

売上高

(億円)

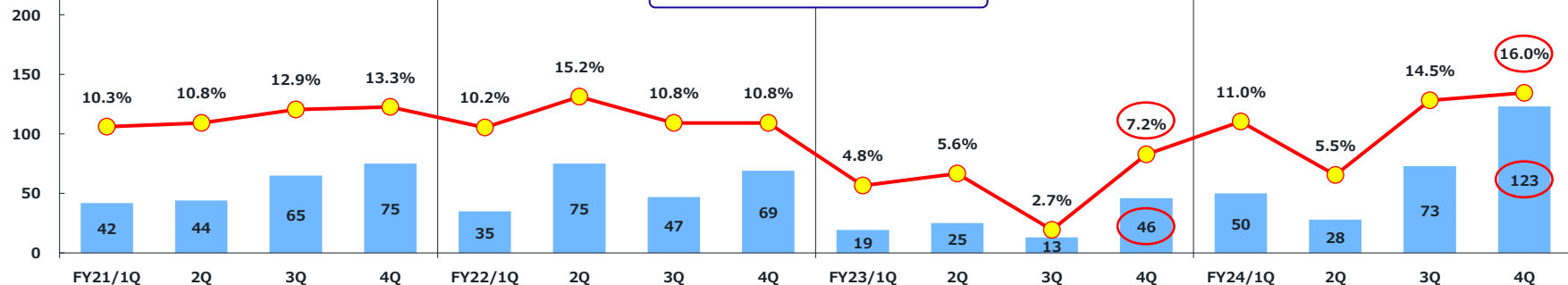
為替
レート



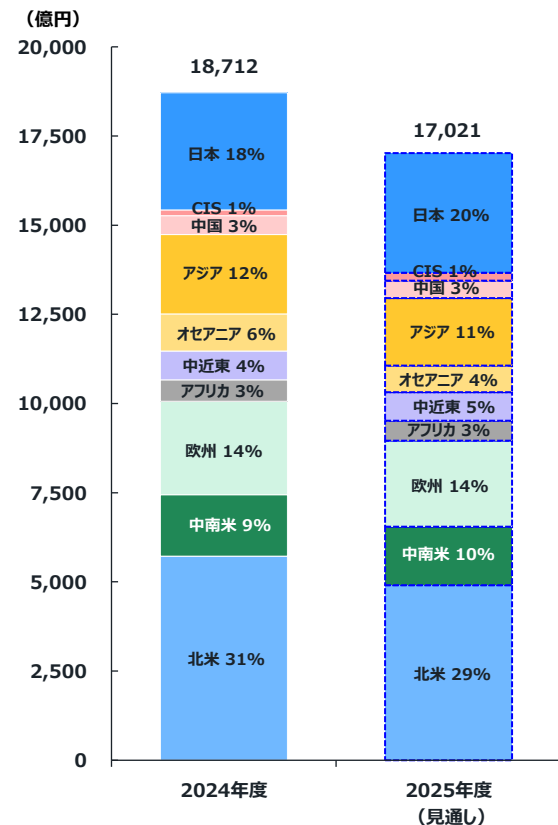
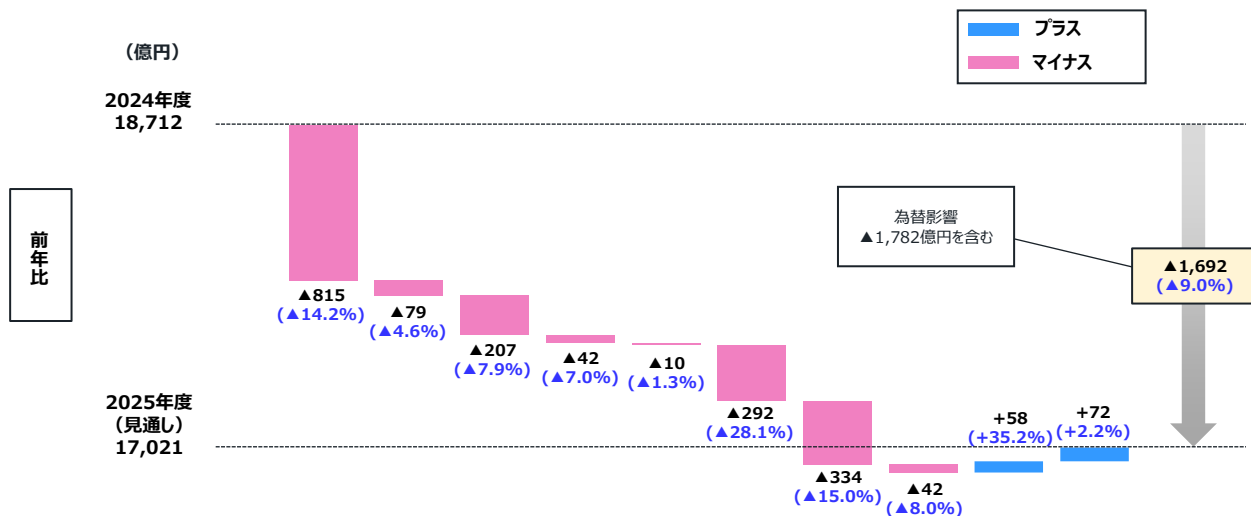
セグメント利益

(億円)

セグメント利益 売上高セグメント利益率

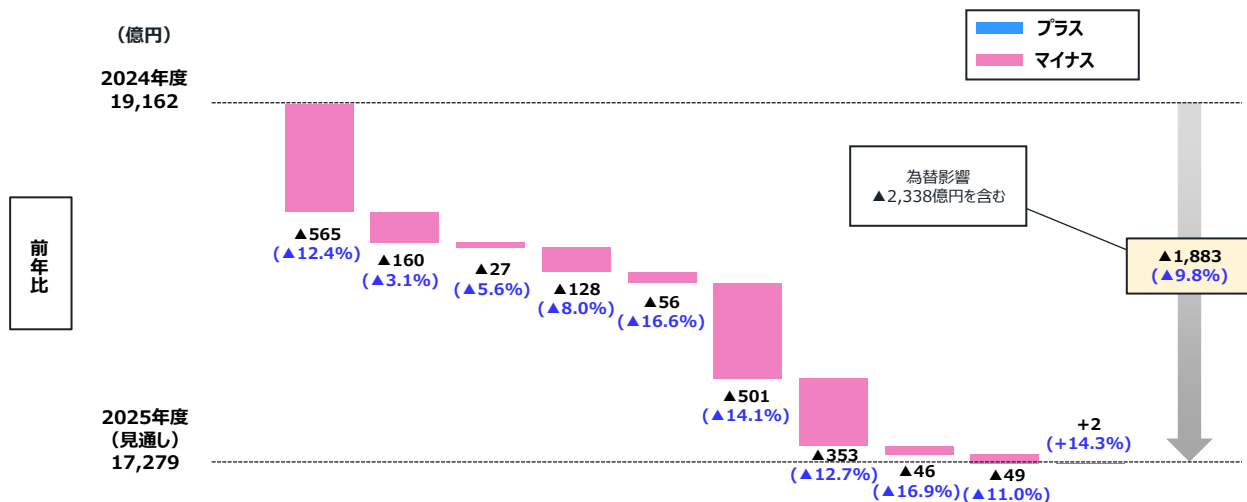


【参考資料】＜一般建機＞2025年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

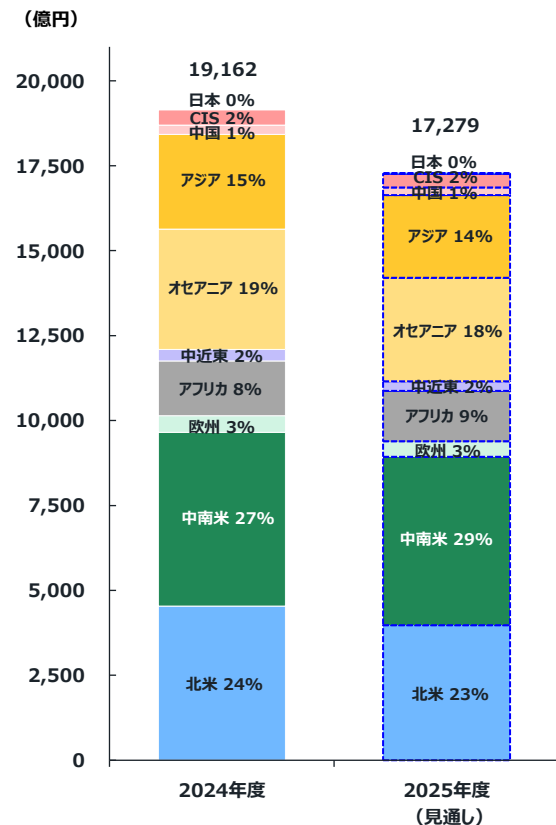


(億円)	米州		欧州	アフリカ	中近東	オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2024年度	5,723	1,719	2,619	601	808	1,039	2,226	531	164	3,282	18,712
2025年度 (見通し)	4,908	1,640	2,412	559	798	747	1,892	489	221	3,354	17,021
増減	▲ 815	▲ 79	▲ 207	▲ 42	▲ 10	▲ 292	▲ 334	▲ 42	+58	+72	▲ 1,692
増減 (為替影響除き)	▲ 167	+134	+112	+21	+58	▲ 153	▲ 81	+33	+61	+72	+90

【参考資料】＜鉦山機械＞2025年度の地域別売上高（外部顧客向け）の見通し

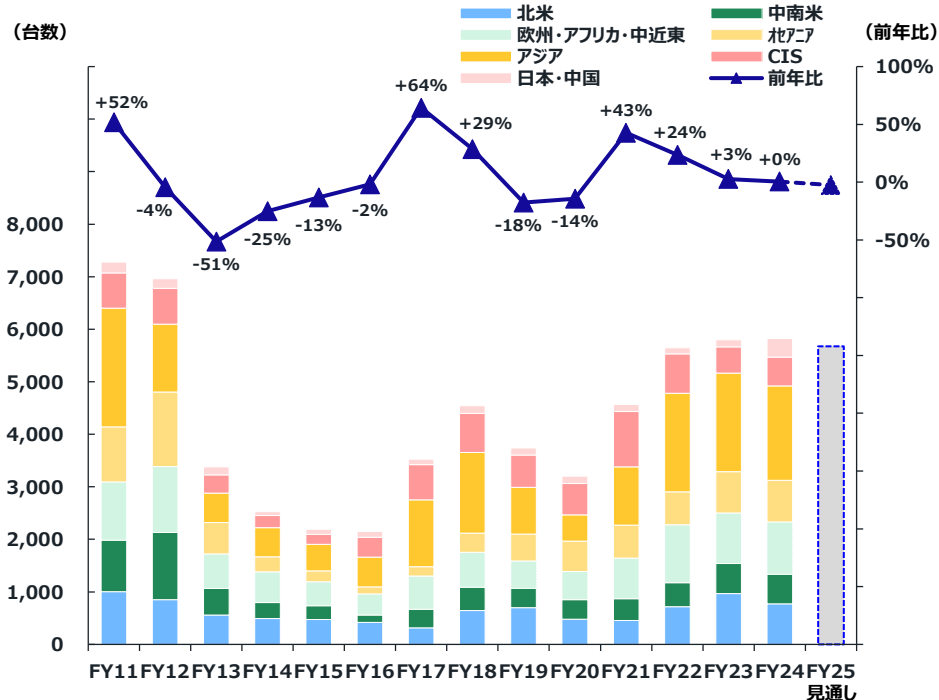


(億円)	米州		欧州	アフリカ	中近東	オセアニア アジア CIS				日本	合計
	北米	中南米	欧州	アフリカ	中近東	オセアニア	アジア	中国	CIS		
2024年度	4,541	5,117	485	1,610	338	3,548	2,787	271	451	14	19,162
2025年度 (見通し)	3,976	4,957	458	1,482	282	3,047	2,434	225	402	16	17,279
増減	▲ 565	▲ 160	▲ 27	▲ 128	▲ 56	▲ 501	▲ 353	▲ 46	▲ 49	+2	▲ 1,883
増減 (為替影響除き)	▲ 38	+488	+33	+43	▲ 34	+42	▲ 29	▲ 14	▲ 38	+2	+455



【参考資料】＜建設機械・車両＞ 鉱山機械の需要・売上高の推移と見通し

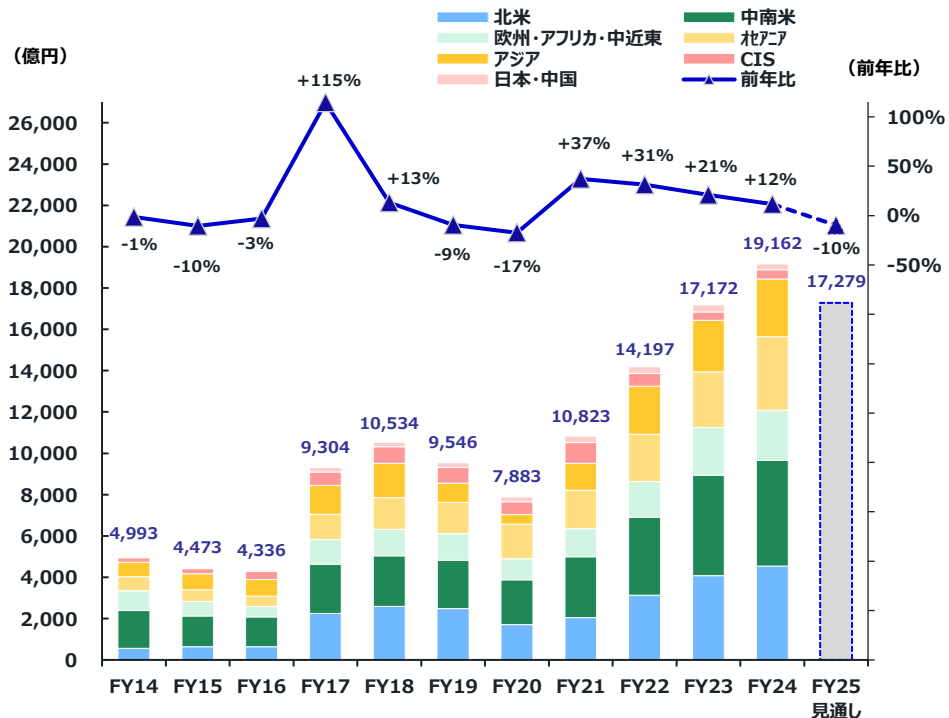
鉱山機械 年度別需要推移



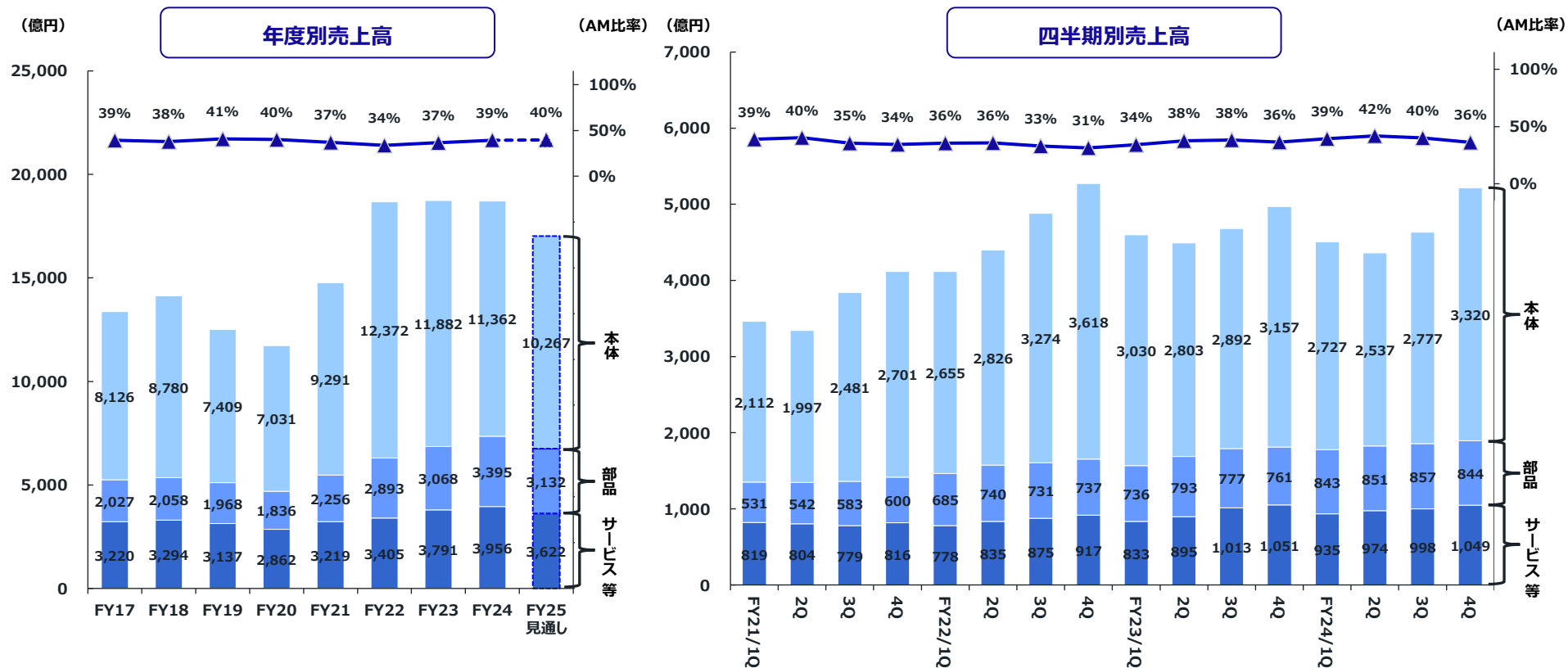
【出所】 コマツの推定

- ・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上
- ・エクスカベーター：200 t (PC2000) 以上
- ・モーターレーダー：280HP (GD825) 以上
- ・フルトラクター：525HP (D375) 以上
- ・ホイールローダー：810HP (WA800) 以上

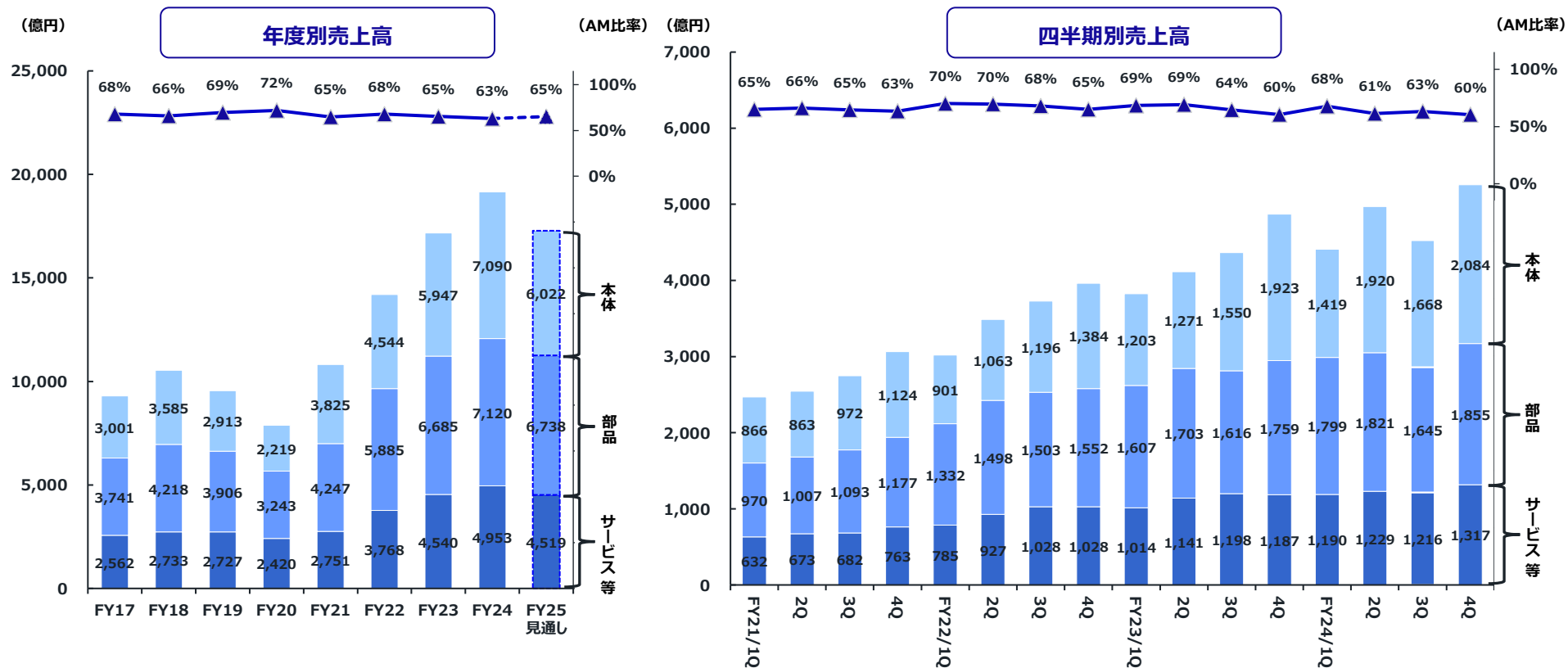
鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



【参考資料】＜一般建機＞本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）

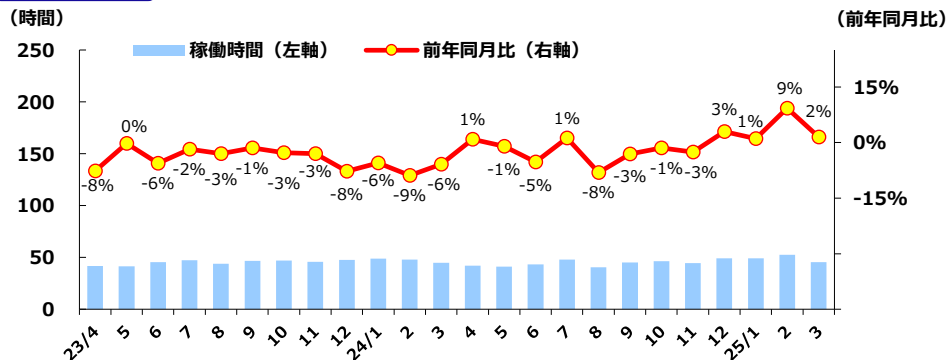


【参考資料】＜鉦山機械＞ 本体・部品・サービス等の売上高（外部顧客向け）

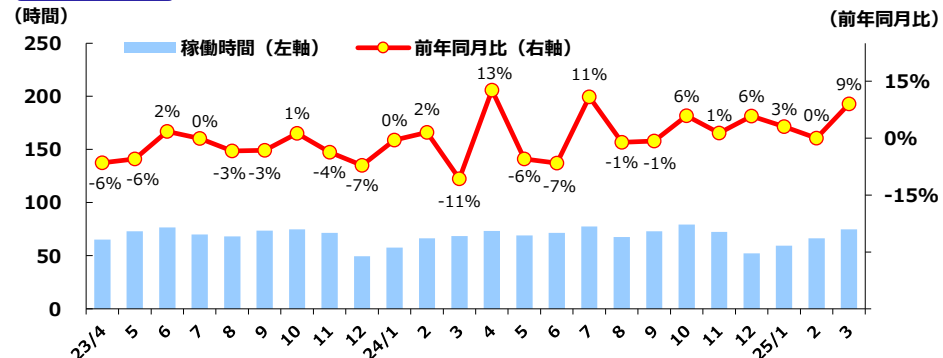


【参考資料】Komtrax 月平均稼働時間推移

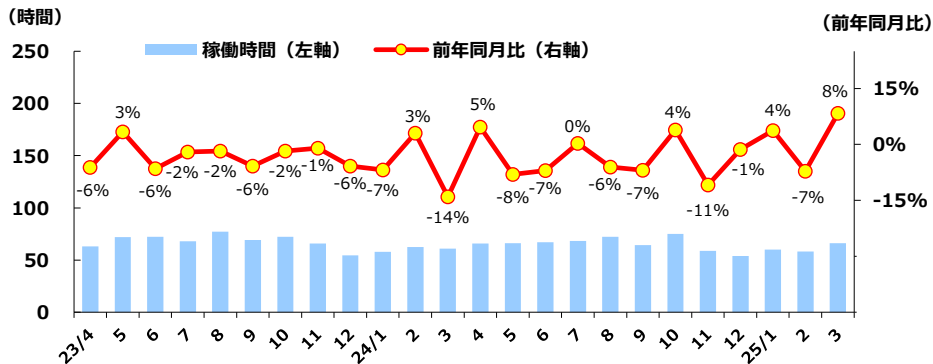
日本



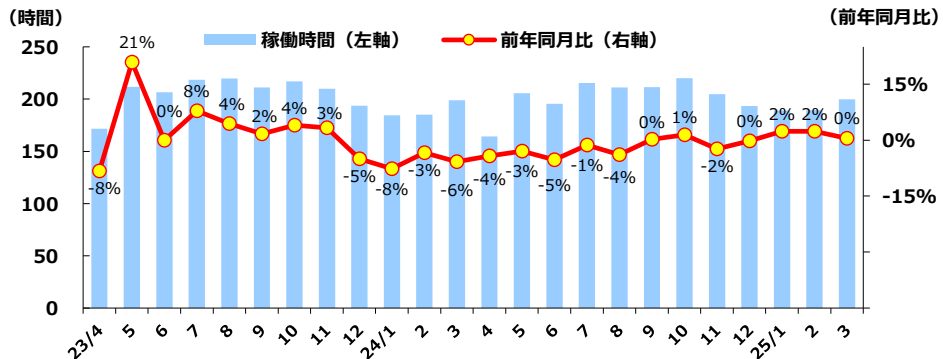
欧州



北米



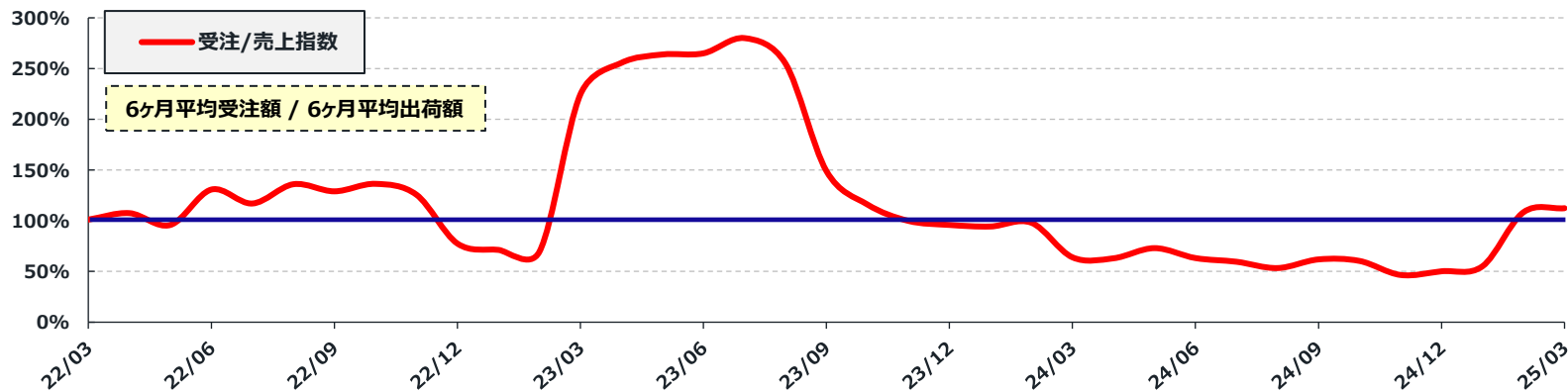
インドネシア



【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

コマツアメリカ (マイニング)

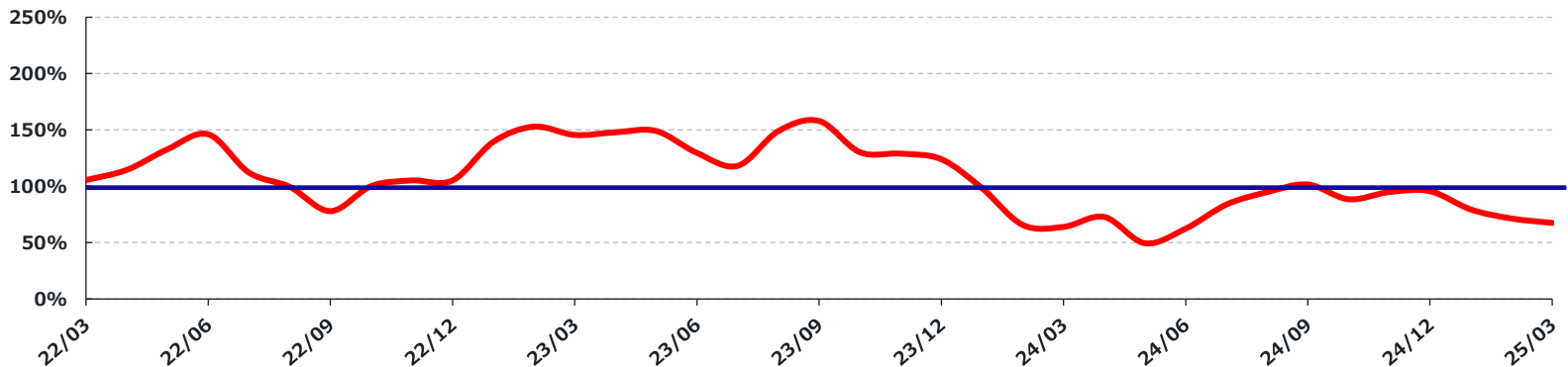
730E,830E,860E
930E,960E,980E



KMC (マイニング)

<露天掘り>
ロープショベル
プラストホールドリル
ドラグライン他

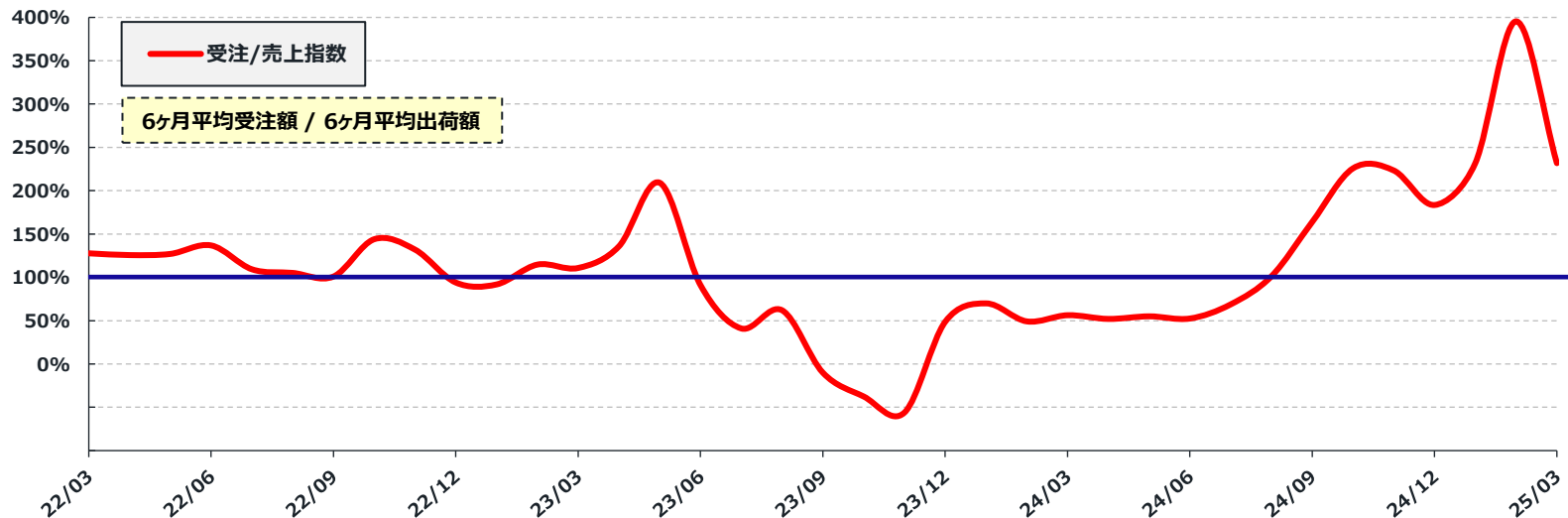
<坑内掘り>
コンティニアスマイナー
シアラー
ロードホールダンブ
ジャンボドリル他



【参考資料】BBレシオ〔受注／売上指数（6ヶ月）〕 鉱山機械（本体）

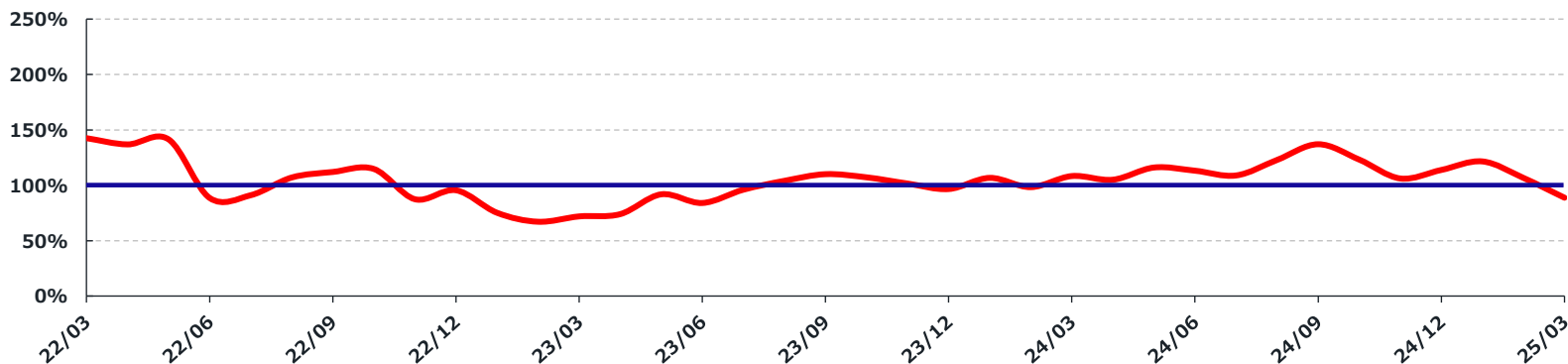
コマツドイツ (マイニング)

PC3000,PC4000
PC5500,PC7000
PC8000,PC9000



コマツ単独 (マイニング)

HD785,HD1500
PC2000,PC3400
WA800 up
D375A up
GD825A up



参考情報リンク先

株主・投資家情報

<https://www.komatsu.jp/ja/ir>

中期経営計画

https://www.komatsu.jp/ja/newsroom/2025/20250428_2

コマツレポート（統合報告書）

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/annual>

IR-Day

<https://www.komatsu.jp/ja/ir/library/results/2024>

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部

TEL: 03-6849-9725

FAX: 03-6849-9795

<https://www.komatsu.jp/ja>